



沖縄県

総合精神保健福祉センター所報

令和3（2021）年度実績

沖縄県立総合精神保健福祉センター

はじめに

皆さま方のご協力によりまして、令和 3 年度の事業を無事終了し所報をお届けできま
すことを心より感謝申し上げます。

令和 3 年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に振り回された 1 年でした。
県内精神科病院にコロナ陽性患者が発生する度に、県コロナ対策本部内に DPAT 調
整本部を立ち上げて発生病院に DPAT 隊を派遣しました。その結果活動した DPAT 隊
は延べ 727 隊でした (DPAT 事務局資料より)。 コロナ感染症対策にあおりを受け、所内
BCP を行わざるを得ませんでした。やむなく依存症ショートケアを中止、ひきこもりショ
ートケアを半減しました。

もちろん DPAT 以外にも様々な事業を展開しました。

ひきこもり対策については、ひきこもり専門支援センターを開所してから 6 年経過し相
談件数が高止まりの状態です。3 名の相談員がフル活動してきましたが、令和 4 年度か
らは 4 名体制になります。

依存症関係では、依存症ショートケア (アルコールと薬物) は中止しましたが、ギャンブル
依存に特化したプログラムは続けています。残念ですがアディクションフォーラムは
1000 人規模の大きな会場を予約していましたが、コロナの影響で前年度に引き続き中
止しました。

それ以外の事業では、自殺対策、自死遺族支援、精神科救急医療情報センター、地
域移行・地域定着支援などの事業を継続展開しています。もちろん常時電話相談や来
所相談に対応しております。加えて、コロナ感染症メンタルヘルス対応に特化した電話
相談の回線を増やしました。

退院請求、処遇改善請求、自立支援医療、精神障害者保健福祉手帳認定等の法
定業務も行っています。特に自立支援医療認定件数・手帳認定件数は年々増加し、年
間 7 万件を超えています。

以上の他にも様々な事業・業務を実施しましたので本所報の各ページをご覧ください。

令和 4 年度も関係者の皆様のご協力をいただき、県民の皆さまの精神的な健康が保
てますよう職員一同頑張ります。どうぞよろしくお願ひ致します。

令和 4 年 6 月

所長 宮川 治

目 次

I 総合精神保健福祉センター概要

1	設立の趣旨・経緯	1
2	沿 革	1
3	歴代所長	2
4	施設概要	2
5	組織及び事務分掌	3
6	年度別決算状況	4
7	総合精神保健福祉センター平面図	5

II 事業実績

(I) 法定業務

1	自立支援医療(精神通院)及び精神障害者保健福祉手帳の判定事務	6
2	精神医療審査会事務	7

(II) 精神保健福祉相談事業

1	精神保健福祉相談業務概要	8
2	来所相談	8
3	こころの電話(心の健康づくり相談事業)	12
4	特定相談	15
5	診 療	16
6	ギャンブル障害(依存症)回復プログラム	16
7	新型コロナウイルス感染症に対応した心のケア支援事業	17

(III) デイケア及び家族支援事業

1	薬物・アルコール依存症ショートケア	18
2	ひきこもりショートケア	20
3	家族支援	22

(IV) 教育研修、普及啓発、技術援助、組織育成支援

1	教育研修	23
2	普及啓発	27
3	技術援助・連絡会議	28
4	組織育成支援	31

(V) 精神科救急医療体制

1	精神科救急医療情報センター相談窓口の受信状況	32
2	精神科救急医療連絡会	34

(VI) ひきこもり専門支援センター事業

1	ひきこもり専門支援センター概要	35
2	業務内容	35

(VII) 職員研修

1	職員研修	40
---	------	----

資 料

1	沖縄県精神科救急医療体制概要	41
2	沖縄県精神科救急医療体制図	42
3	沖縄県精神科救急医療情報センター電話相談窓口の流れ<フローチャート>	43
4	救急隊による精神科救急患者搬送の流れ<フローチャート>	44

I 総合精神保健福祉センター概要

- 1 設立の趣旨・経緯
- 2 沿革
- 3 歴代所長
- 4 施設概要
- 5 組織及び事務分掌
- 6 年度別決算状況
- 7 総合精神保健福祉センター平面図

1 設立の趣旨・経緯

昭和40年6月に精神衛生法の一部改正によって、都道府県は、精神衛生の向上を図るため精神衛生センターを設置することができることとされた。

これにより精神衛生センターは、「精神衛生に関する知識の普及を図り、精神衛生に関する調査研究を行い、並びに精神衛生に関する相談及び指導のうち複雑又は困難なものを行う施設とする。」と規定され、精神衛生の総合技術センターとしての機能を担う体制が確立した。

しかし、本県においては当時の琉球政府による精神衛生に関する相談専門機関の設置はなく、財団法人沖縄精神衛生協会が設置した「沖縄精神衛生相談所(メンタル・クリニック併設)」が活躍していた。

昭和47年5月15日の本土復帰に伴い本土法の全面的な適用となり、県は精神衛生行政の積極的な推進体制を整え、精神衛生協会が設置した相談所を昭和49年3月に沖縄県立精神衛生センターとして位置づけ出発し、昭和51年9月には、デイケア事業を開設した。昭和62年9月に精神衛生法から精神保健法に改正され、昭和63年7月施行に伴い名称を沖縄県立精神保健センターに、平成元年4月には沖縄県立総合精神保健センターと名称を改め、平成2年5月にはデイケア施設基準の認可を受けた。

更に平成7年5月に精神保健法が「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改正され、同年7月に施行されたことに伴い、同年10月16日に沖縄県立総合精神保健福祉センターと名称を改め、現在に至る。

2 沿革

昭和43年2月	琉球政府及び南方同胞援護会の協力を得て財団法人沖縄精神衛生協会は、「沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック併設」の新築工事に着手
昭和43年6月	沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック新築工事完成(367 m ²)
昭和44年1月	財団法人沖縄精神衛生協会「沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック」開設
昭和49年3月	財団法人沖縄精神衛生協会は「沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック」を無償で県へ移管 (1) 沖縄県立精神衛生センターの設置及び管理に関する条例公布 (2) 財団法人沖縄精神衛生協会が設置する沖縄精神衛生相談所の県移管に伴う職員の給与等に関する特別措置条例公布
昭和49年4月	沖縄県立精神衛生センターとして発足(診療所開設許可) (1) 職員：所長(県立精和病院長兼務)、次長、臨床心理担当者、看護師、精神科ソーシャルワーカー他 計7名 (2) 建物：367 m ² 2階建
昭和50年12月	建物増築工事着工(デイケア部門、教育研修室、所長室、倉庫、198 m ² 及び空調機器)
昭和51年5月	増築工事完成、延床面積565 m ²
昭和51年9月	デイケア事業を開設
昭和61年6月	こころの電話相談開設
昭和63年10月	南風原町字宮平212-3(県立精和病院跡地)に新築着工、平成元年3月竣工
平成元年4月	沖縄県立総合精神保健センターと名称を改める
平成2年5月	健康保険法の規定による精神科デイケア施設が承認認可される
平成7年10月	沖縄県立総合精神保健福祉センターに名称を改める
平成10年6月	精神科救急医療システム支援事業開始
平成14年4月	精神障害者通院医療費公費負担及び精神障害者保健福祉手帳判定事務、精神医療審査会事務の実施
平成17年8月	「うつ病デイケア」開始、プログラムの民間医療機関等への普及開始
平成18年3月	「一般デイケア(統合失調症中心)」終了
平成20年4月	「うつ病デイケア」同プログラム及び認知行動療法(CBT)の普及を強化
平成25年4月	「災害時におけるこころのケア体制整備事業」開始
平成26年4月	「災害派遣精神医療チーム(DPAT)体制整備事業」に名称変更、沖縄県地域防災計画にDPATが位置づけられ、人材育成研修を強化する

平成 27 年 11 月	県内精神科病院等 11 機関が DPAT 登録。12 月に第 1 回 DPAT 研修会を開催
平成 28 年 4 月	平成 28 年熊本地震では 75 日間に渡り、沖縄県 DPAT を 12 隊、延 62 名派遣
平成 28 年 4 月	「沖縄県ひきこもり専門支援センター」を当センター内に開設
平成 28 年 6 月	同年 10 月より相談支援専門員（非常勤職員 3 名）による相談事業開始
平成 28 年 10 月	うつ病デイケア終了
平成 29 年 2 月	「薬物・アルコール依存症ショートケア事業」を開始
令和 元年 8 月	ひきこもりデイケア事業開始
令和 2 年 4 月	ギャンブル障害回復プログラムを開始
令和 2 年 6 月	依存症相談拠点機関に指定
	施設基準：精神科ショートケア「小規模なもの」を届出し、精神科ショートケア「大規模なもの」及び精神科デイケア「大規模なもの」を辞退
	新型コロナウイルス感染症に関するこころの電話相談開設

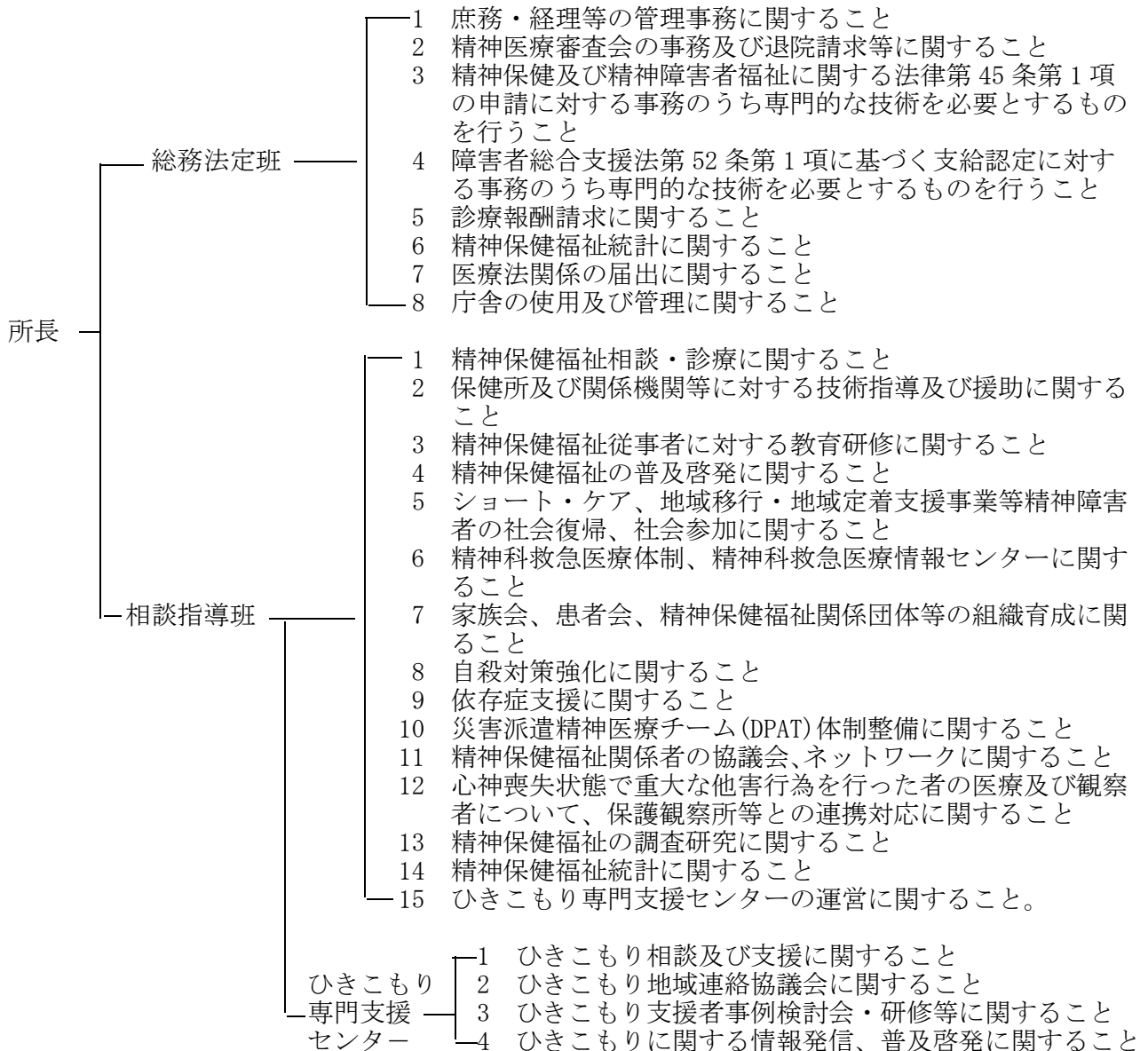
3 歴代所長

初代	屋良 澄夫	昭和 49 年 4 月～平成 元年 3 月（県立精和病院長兼務）
第 2 代	小渡 有明	平成 元年 4 月～平成 7 年 3 月
第 3 代	大嶺 経勝	平成 7 年 4 月～平成 9 年 3 月
第 4 代	中山 勲	平成 9 年 4 月～平成 11 年 3 月
第 5 代	仲村 永徳	平成 11 年 4 月～平成 15 年 3 月
第 6 代	新垣 米子	平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月
第 7 代	仲本 晴男	平成 16 年 4 月～平成 28 年 3 月
第 8 代	宮川 治	平成 28 年 4 月～現在に至る

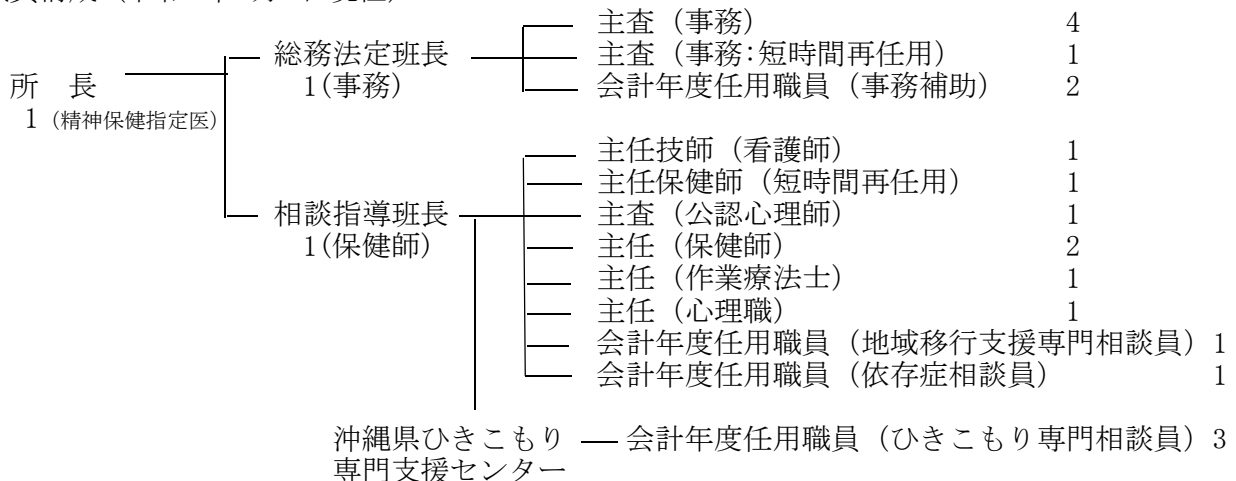
4 施設概要

- (1) 名称 沖縄県立総合精神保健福祉センター
- (2) 電話 事務所（代表） 098-888-1443
 // （F A X） 098-888-1710
 こころの電話 098-888-1450
 こころの健康相談統一ダイヤル 0570-064556
 新型コロナウイルス感染症に関するこころの電話 098-996-3163
 Email : xx031151@pref.okinawa.lg.jp
- (3) ホームページ <http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/seishinhoken/index.html>
- (4) 所在地 沖縄県南風原町字宮平 212-3

5 組織及び事務分掌



職員構成（令和3年4月1日現在）



6 年度別決算状況

(1) 歳入

単位(円)

科目 \ 年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
使用料及び手数料	1,091,920	1,449,964	1,381,595	719,854	875,135
使用料	1,088,470	1,445,854	1,373,405	717,604	867,905
手数料	3,450	4,110	8,190	2,250	7,230
財産収入	162,000	162,000	162,000	33,990	33,990
諸収入	220,088	206,461	212,897	271,832	267,952
雑入	220,088	206,461	212,897	271,832	267,952
合計	1,474,008	1,818,425	1,756,492	1,025,676	1,177,077

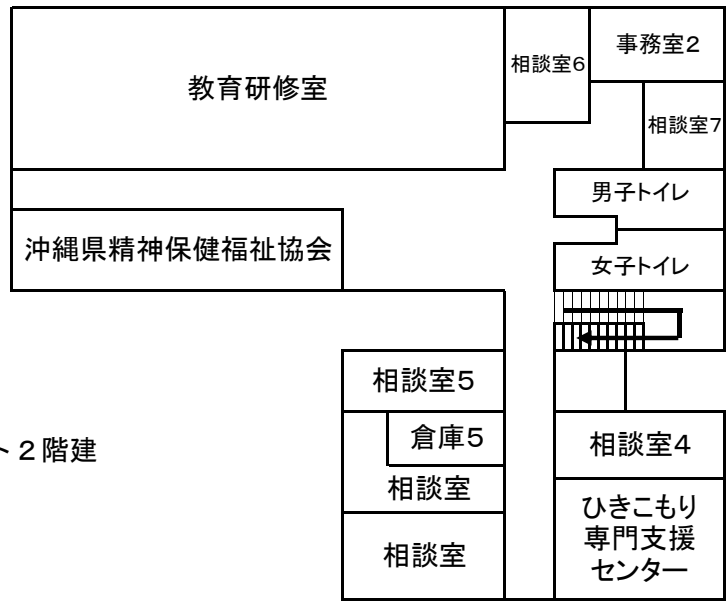
(2) 歳出（人件費を除く）

単位(円)

科目 \ 年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
総務費	0	0	0	0	0
衛生費	47,350,847	48,636,790	54,658,652	59,520,882	52,829,090
公衆衛生費	47,120,705	48,470,787	54,562,602	59,520,882	52,370,544
精神衛生費	47,120,705	48,470,787	54,562,602	59,445,903	52,370,544
特定疾患対策費	0	0	0	0	0
予防費	0	0	0	74,979	0
医薬費	230,142	166,003	96,050	0	458,546
薬務費	230,142	166,003	96,050	0	0
民生費	1,011,240	907,166	965,861	867,016	518,982
社会福祉費	1,011,240	907,166	965,861	867,016	518,982
障害者自立支援諸費	1,011,240	907,166	965,861	867,016	518,982
合計	48,362,087	49,543,956	55,624,513	60,387,898	53,348,072

7 総合精神保健福祉センター平面図（令和4年4月1日現在）

【2階】

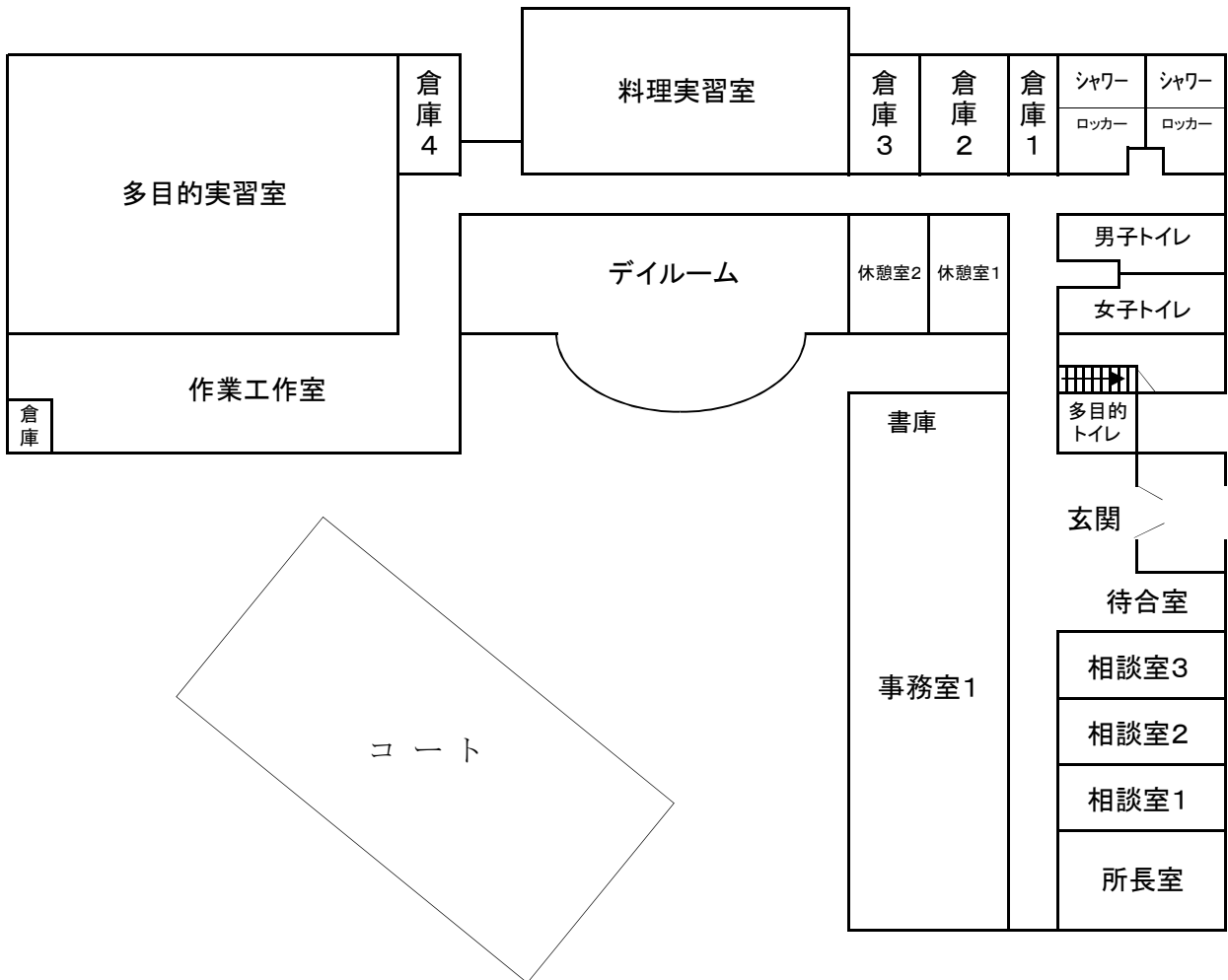


敷地面積 4410.33 m²

建物の構造 鉄筋コンクリート2階建

延べ床面積 1396.41 m²

【1階】



Ⅱ 事業実績

(Ⅰ) 法定業務

(Ⅱ) 精神保健福祉相談事業

(Ⅲ) デイケア及び家族支援事業

(Ⅳ) 教育研修、普及啓発、技術援助、組織育成支援

(Ⅴ) 精神科救急医療体制

(Ⅵ) ひきこもり専門支援センター

(Ⅶ) 職員研修

(I) 法定業務

1 自立支援医療(精神通院)及び精神障害者保健福祉手帳の判定事務

精神障害者通院医療費公費負担等判定委員会は、12名の判定委員で構成され、令和3年度は毎月2回開催された。

自立支援医療(精神通院)の診断書による判定及び診断書無の承認件数は以下のとおりである。令和3年度の承認件数は51,372件(前年比0.4%(213件)減)であった。

精神障害者保健福祉手帳は、その精神疾患による初診から6ヶ月以上経過した診断書が必要である。有効期限は交付日から2年が経過する日の属する月の末日となっているため、2年毎に診断書による更新、障害等級に定める精神障害の状態について認定を行っている。令和3年度の手帳交付件数は11,399件(内訳1級3,151件、2級6,021件、3級2,277件。前年比19.7%(1,875件)増)であった。

※令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応について

自立支援医療(精神通院):令和2年3月1日から令和3年2月末日までに受給者証の有効期間が満了する受給者を対象に、その有効期間を1年延長する措置(自動更新)が実施された。

精神障害者保健福祉手帳:令和2年3月1日から令和3年2月末日までの間に手帳の有効期限を迎える者のうち、更新時に医師の診断書を添えて提出する必要がある者については、障害者手帳申請書の提出を持って医師の診断書の提出を1年猶予した上での更新措置(臨時更新)が実施された。

○ 判定及び承認状況(診断書によるもの。数字は件数。)

(1) 自立支援医療(精神通院)

区分	診断書有			診断書無 承認	コロナ対応 による自動 更新	承認合計
	判定 (うち保留分)	承認	不承認 (うち一部不承認)			
H29年度	27,668(604)	27,055	9	16,403		43,458
H30年度	23,068(830)	22,217	32(11)	22,701		44,918
R1年度	30,304(1,167)	29,100	49(12)	18,966		48,066
R2年度	18,703(1,962)	16,716	38(13)	7,231	27,638	51,585
R3年度	28,724(1,935)	26,757	72(40)	24,615		51,372

(2) 精神障害者保健福祉手帳

区分	判定 (うち保留分)	等級内訳			承認合計	不承認
		1級	2級	3級		
H29年度	9,656(567)	2,704	4,671	1,681	9,056	33
H30年度	9,632(691)	2,435	4,763	1,686	8,884	57
R1年度	11,248(901)	2,956	5,394	1,907	10,257	90
R2年度	10,846(1,269)	2,494	5,205	1,825	9,524	53
うち臨時更新		(97)	(228)	(58)	(383)	
R3年度	12,774(1,313)	3,151	6,021	2,227	11,399	62

2 精神医療審査会事務

精神医療審査会は、精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保するために、精神科病院に入院している精神障害者の処遇等について専門的かつ独立的な機関として審査を行うために設置されたものである。

精神保健福祉法の改正により、平成14年4月1日から審査会の独立性をより強化するため審査会の事務は精神保健福祉センターで行うこととなった。

沖縄県精神医療審査会は、2合議体(医療委員6名・法律委員4名・有識者委員6名)で計16名の審査委員で構成されており、毎月2回(第1・第3金曜日)開催している。

審査業務としては、医療保護入院届・措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告書の書類審査と精神科病院に入院中の患者及びその家族等からの退院請求及び処遇改善の請求審査を行っている。

平成14年4月から退院等の請求の電話受理も精神保健福祉センターで行っており、令和3年度の電話相談件数は、335件であった。また、退院等の請求の受理から結果通知までに要した日数は、令和3年度は平均で22日となっている。

(1) 報告書類の審査状況

区分	医療保護入院者の入院届				医療保護入院者の定期病状報告書				措置入院者の定期病状報告書				合 計			
	審査件数	審査結果			審査件数	審査結果			審査件数	審査結果			審査件数	審査結果		
		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要
H29年度	3,425	3,425	0	0	1,232	1,232	0	0	29	29	0	0	4,686	4,686	0	0
H30年度	3,417	3,416	0	1	1,220	1,220	0	0	32	32	0	0	4,669	4,668	0	1
R1年度	3,517	3,517	0	0	1,282	1,282	0	0	23	21	2	0	4,822	4,820	2	0
R2年度	3,572	3,571	0	1	1,319	1,319	0	0	24	23	1	0	4,915	4,913	1	1
R3年度	3,555	3,554	0	1	1,270	1,270	0	0	31	31	0	0	4,856	4,855	0	1

(2) 退院等請求の審査状況

区 分		退院請求						処遇改善						電話相談件数
		申請件数	審査結果 ※			取り下げ	審査要件消失 退院等	申請件数	審査結果			取り下げ	審査要件消失 退院等	
			入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要				入院等は適当	処遇は不適当	その他			
H29年度	計	86	66	1	0	8	11	1	1	0	0	0	0	529
H30年度	計	90	77	0	0	9	4	6	2	1	0	1	2	335
R1年度	計	82	66	0	0	5	11	22	19	2	0	1	0	302
R2年度※	計	103	93	1	1	7	6	11	9	0	0	2	0	301
R3年度	措置入院	14	13	0	0	0	1	5	4	0	0	0	1	335
	医療保護	64	47	1	0	6	10	9	7	0	0	1	1	
	任意入院	4	3	0	0	1	0	4	3	0	0	1	0	
	計	82	63	1	0	7	11	18	14	0	0	2	2	

※退院請求審査結果欄には、年度における審査結果数(前年度申請分を含む)を計上しているため、申請件数とは異なる。

(Ⅱ) 精神保健福祉相談事業

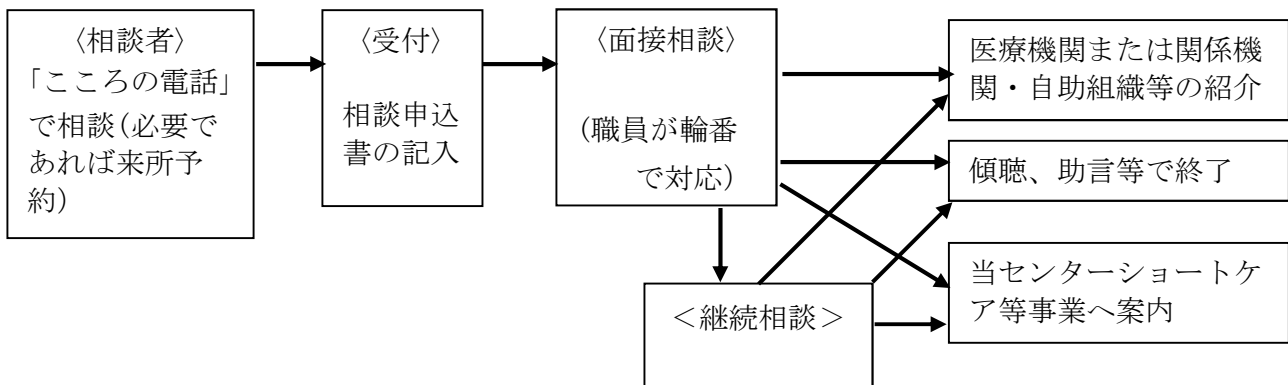
1 精神保健福祉相談業務概要

精神保健福祉センターでは精神保健福祉全般について、本人からの相談だけでなく家族、親戚、上司・同僚等関係者からの相談を受けている。心身の不調や病気治療、療養に関すること、依存に関すること、人間関係、仕事や学校に関すること、性格行動に関すること、その他ひきこもり、拒食・過食、自傷行為、過度のこだわり等による生きづらさなど様々な相談に応じている。また、医療機関や相談機関、福祉サービスなどの情報提供も行っている。相談は、職員(心理士、保健師、看護師、作業療法士等)が輪番で対応している。

2 来所相談

(1) 相談の流れ

直接来所を希望する人に対し面接相談を行うが、来所相談は予約制である。相談を希望する場合、まず「こころの電話:098-888-1450」に電話し、相談概要を伝え予約を取ることになっている。



(2) 来所相談日

月曜日～金曜日(祝日、年末年始、慰霊の日を除く。)
9時～11時、13時～16時まで。

(3) 相談対象者の概要

相談件数は延べ121件で、対象者の性別を見ると、男性83件(68.6%)、女性38件(31.4%)である。相談実件数は100件、82.6%は一回の相談で終了している。

	実件数			延件数
	新規件数	初件数	小計	
合計	94	6	100	121
男	61	4	65	83
女	33	2	35	38

* 新規件数: 初めて当センターに来所した件数

* 初件数: 以前来所相談したことのある者で、本年度初めて来所した件数

(4) 来所相談内容

来所の相談内容で最も多いのは、「依存の問題」64件で全体の52.9%を占め、次いで「病気等に関すること」が29件で24.0%であった。

相 談 内 容	相 談 実 件 数			相 談 延 人 員				相 談 内 容 別 割 合 (%)
	新	初	実数	男	女	不明	計	
1 病気等に関すること	26		26	12	17		29	24.0
(1) 病気でないかと不安・疑問	12		12	7	7		14	
(2) 治療に関すること	8		8	2	6		8	
(3) 療養生活上のこと	6		6	3	4		7	
(4) 社会復帰に関すること			0				0	
(5) 精神病以外の病気に関すること			0				0	
2 性格行動上の問題	4		4	2	2		4	3.3
3 人間関係に関する問題	10	1	11	6	5		11	9.1
(1) 家族関係(夫婦・親子)	6	1	7	4	3		7	
(2) 職場関係	3		3	2	1		3	
(3) その他	1		1		1		1	
4 性に関すること			0				0	0.0
5 依存の問題	46	4	50	52	12	0	64	52.9
(1) 酒害	14		14	9	5		14	
(2) 薬物	1	1	2	1	1		2	
(3) ギャンブル	27	3	30	36	5		41	
(4) ゲーム	4		4	6	1		7	
(5) その他			0				0	
6 教育しつけに関すること			0				0	0.0
7 思春期の心身の悩み			0				0	0.0
8 非行・反社会的行動に関すること			0				0	0.0
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	2	1	3	2	1		3	2.5
10 その他	6		6	9	1		10	8.2
合 計	94	6	100	83	38	0	121	

(5) 来所相談対象者の性別・年代別(延べ件数)

相談の対象者は40代が26件21.5%で最も多く、次いで20代が24件で19.8%となっている。

項目 相談内容	性別				年代別									
	男	女	不明	計	～9	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
1 病気等に関すること	12	17		29	0	1	4	3	9	2	4	4	2	0
(1) 病気でないかと不安・疑問	7	7		14			3	1	4	1	1	4		
(2) 治療に関すること	2	6		8		1		1	2	1	2		1	
(3) 療養生活上のこと	3	4		7			1	1	3		1		1	
(4) 社会復帰に関すること				0										
(5) 精神病以外の病気に関すること				0										
2 性格行動上の問題	2	2		4			2	2						
3 人間関係に関すること	6	5		11	0	2	2	2	1	2	1	1	0	0
(1) 家族関係(夫婦・親子)	4	3		7		2	1		1	2		1		
(2) 職場関係	2	1		3			1	2						
(3) その他		1		1							1			
4 性に関すること				0										
5 依存の問題	52	12	0	64	0	7	12	7	15	10	6	5	0	2
(1) 酒害	9	5		14					7	4	1	1		1
(2) 薬物	1	1		2		1		1						
(3) ギャンブル	36	5		41			11	6	8	6	5	4		1
(4) ゲーム	6	1		7		6	1							
(5) その他				0										
6 教育しつけに関すること				0										
7 思春期の心身の悩み				0										
8 非行・反社会的行動に関すること				0										
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	2	1		3		1	1		1					
10 その他	9	1		10		1	3	5			1			
合計	83	38	0	121	0	12	24	19	26	14	12	10	2	2
割合 (%)	68.6	31.4	0.0		0	9.9	19.8	15.7	21.5	11.6	9.9	8.3	1.7	1.7
再掲	ひきこもり	1	1		2		1		1					
	うつ	8	4		12			4	1	3	4			
	自殺	6			6				6					

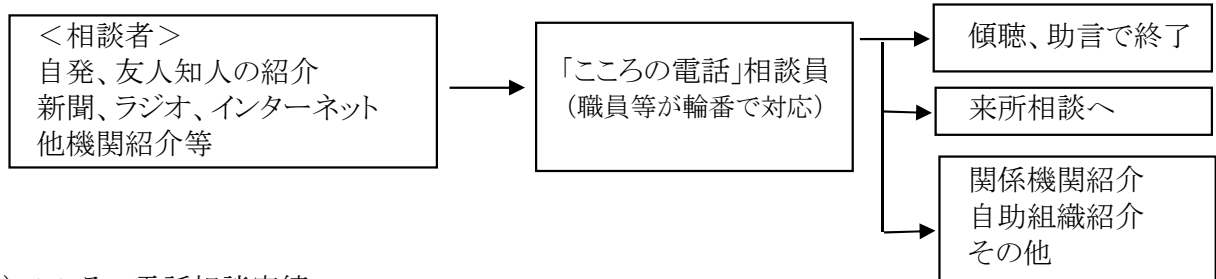
(6) 来所相談の処遇状況(延べ件数)

相談者の処遇は「指導助言」が53件43.8%、次いで「継続相談のすすめ」が23件19.0%となっている。

区分 相談内容	指導助言	他機関を紹介				自助グループ紹介	センター紹介	紹介	セルフプログラム	継続相談のすすめ	合計
		医療機関	保健所	市町村	その他						
1 病気等に関すること	16	10	1	2	0	0	0	0	0	29	
(1) 病気でないかと不安・疑問	6	7		1						14	
(2) 治療に関すること	4	3	1							8	
(3) 療養生活上のこと	6			1						7	
(4) 社会復帰に関すること										0	
(5) 精神病以外の病気に関すること										0	
2 性格行動上の問題	4									4	
3 人間関係に関する問題	9	1	0	0	1	0	0	0	0	11	
(1) 家族関係(夫婦・親子)	6	1								7	
(2) 職場関係	2				1					3	
(3) その他	1									1	
4 性に関すること										0	
5 依存の問題	16	3	0	0	8	12	0	4	21	64	
(1) 酒害	4	3			1	5			1	14	
(2) 薬物	1				1					2	
(3) ギャンブル	7				4	6		4	20	41	
(4) ゲーム	4				2	1				7	
(5) その他										0	
6 教育しつけに関すること										0	
7 思春期の心身の悩み										0	
8 非行・反社会的行動に関すること										0	
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	1	2								3	
10 その他	7	1							2	10	
合計	53	17	1	2	9	12	0	4	23	121	
割合(%)	43.8	14.0	0.8	1.7	7.4	9.9	0.0	3.3	19.0		
再掲	ひきこもり			1		1				2	
	うつ	4	4			2			2	12	
	自殺	5	1							6	

3 こころの電話相談(心の健康づくり相談事業)

(1) 相談の流れ



(2) こころの電話相談実績

ア 相談実績について

こころの電話相談事業は、専用電話回線を用い、月・水・木・金の9:00～11:30/13:00～16:30に精神保健福祉全般について相談を受けている。

令和3年度のこころの電話相談の総件数は4,379件であった。相談開設日数は191日、1日の平均相談件数は、22.9件であった。新型コロナウイルス感染症に係る国の自殺防止対策の補正予算を申請し、令和2年12月から電話回線を2回線に増設し2体制で実施している。

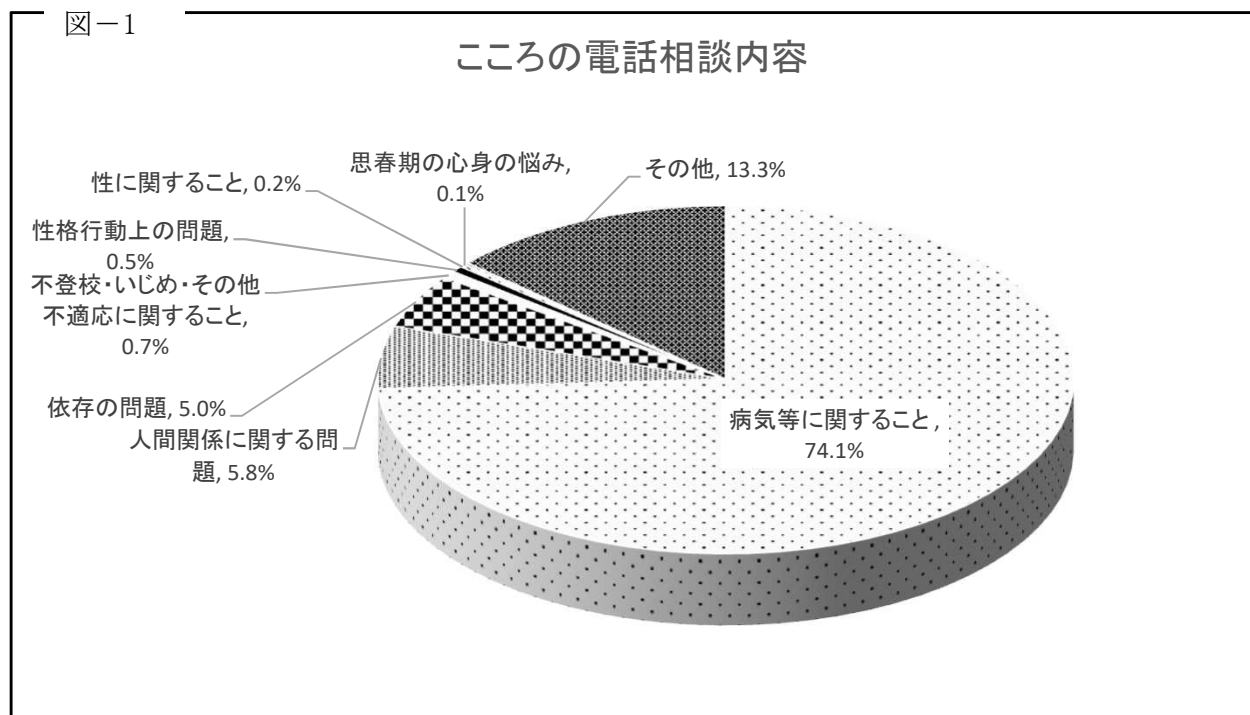
年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
総件数	1,951	2,145	2,612	3,279	4,379
開設日数	192	194	193	196	191

イ 相談者、相談内容について

相談内容は「病気等に関すること」が3,246件(74.1%)を占め、次に「人間関係に関する問題」254件(5.8%)、「依存の問題」221件(5.0%)となっている。その他の相談が583件と13.3%を占め、内容は、新型コロナウイルス感染症に関する相談が137件、無言電話等であった。

処遇状況は、指導助言が3,582件(81.8%)、他機関への紹介489件(11.2%)、当センター来所相談への紹介83件(1.9%)となっている。

図-1



ウ 相談内容及び対象者・通話者(こころの電話相談)

区分 相談内容	対象者				通話者							
	男	女	不明	合計	本人	家族	近親者親戚等	友人近隣等	教育関係者	関係機関者	その他	合計
1 病気等に関すること	1,848	1,351	47	3,246	2,879	317	10	16	1	17	6	3,246
(1) 病気でないかと不安・疑問	83	103	2	188	92	89	3	3			1	188
(2) 治療に関すること	119	149	7	275	145	103	2	10	1	10	4	275
(3) 療養生活上のこと	1,616	1,061	35	2,712	2,594	110	5	1		2		2,712
(4) 社会復帰に関すること	20	13		33	27	6						33
(5) 精神病以外の病気に関すること	10	25	3	38	21	9		2		5	1	38
2 性格行動上の問題	9	14	1	24	17	5		2				24
3 人間関係に関する問題	82	170	2	254	192	52	2	6	0	1	1	254
(1) 家族関係(夫婦・親子)	42	94	1	137	90	42	2	2		1		137
(2) 職場関係	24	26	1	51	47	3					1	51
(3) その他	16	50		66	55	7		4				66
4 性に関すること	6	4		10	9					1		10
5 依存の問題	150	65	6	221	63	128	2	7	1	18	2	221
(1) 酒害	55	23		78	18	49	1	3		6	1	78
(2) 薬物	11	10	2	23	6	13		3		1		23
(3) ギャンブル	63	16	3	82	28	41	1	1	1	9	1	82
(4) ゲーム	13	3		16	3	12				1		16
(5) その他	8	13	1	22	8	13				1		22
6 教育しつけに関すること	3	3		6	1	2	1	1			1	6
7 思春期の心身の悩み		3		3	1	2						3
8 非行・反社会的行動に関すること	2			2		2						2
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	6	21	3	30	8	19			2	1		30
10 その他	228	251	104	583	360	84	6	9	2	34	88	583
合計	2,334	1,882	163	4,379	3,530	611	21	41	6	72	98	4,379
割合 (%)	53.3	43.0	3.7		80.6	14.0	0.5	0.9	0.1	1.6	2.2	
再掲	ひきこもり	7	4	2	13	6	6				1	13
	うつ	49	105	2	156	129	23	2	1	1		156
	自殺	47	53	1	101	76	17		4	2	2	101

エ 処遇状況(こころの電話相談)

区分 相談内容	指導 助 言	他機関を紹介				自 助 グ ル ー プ 紹 介	セ ン タ ー シ ョ ー ト ケ ア	セ ン タ ー 来 所 相 談	依 存 相 談	セ ン タ ー ギ ャ ン ブ ル	継 続 相 談 の す す め	途 中 で 切 れ る	合 計
		医 療 機 関	保 健 所	市 町 村	そ の 他								
1 病気等に関すること	2,919	157	23	23	45	1	0	29	0	9	40	3,246	
(1) 病気でないかと不安・疑問	70	68	12	6	12			14		4	2	188	
(2) 治療に関すること	155	77	9	4	14			11		1	4	275	
(3) 療養生活上のこと	2,643	8	1	8	12	1		2		4	33	2,712	
(4) 社会復帰に関すること	23	1	1	3	4			1				33	
(5) 精神病以外の病気に関すること	28	3		2	3			1			1	38	
2 性格行動上の問題	16	5						2		1		24	
3 人間関係に関する問題	195	9	1	4	28	1	0	6	0	1	9	254	
(1) 家族関係(夫婦・親子)	100	6		3	17			4		1	6	137	
(2) 職場関係	40	1			8			1			1	51	
(3) その他	55	2	1	1	3	1		1			2	66	
4 性に関すること	8				2							10	
5 依存の問題	90	26	3	0	24	7	0	34	32	5	0	221	
(1) 酒害	36	13	2		8			17		2		78	
(2) 薬物	7	5			6	2		3				23	
(3) ギャンブル	24	5	1		4	5		9	31	3		82	
(4) ゲーム	10				2			4				16	
(5) その他	13	3			4			1	1			22	
6 教育しつけに関すること	4	1			1							6	
7 思春期の心身の悩み	2				1							3	
8 非行・反社会的行動に関すること	2											2	
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	10	15		1	2			2				30	
10 その他	336	42	8	13	55	1		10		2	116	583	
合 計	3,582	255	35	41	158	10	0	83	32	18	165	4,379	
割 合 (%)	81.8	5.8	0.8	0.9	3.6	0.2	0.0	1.9	0.8	0.4	3.8		
再 掲	ひきこもり	6			1	4			2			13	
	う つ	105	31		1	8			6	2	2	156	
	自 殺	69	12	1	2	8			4		1	101	

4 特定相談(再掲)

「精神保健福祉センターにおける特定相談指導実施要領」により、アルコール関連問題及び思春期精神保健に関する総合的な相談指導等の事業を図ることとされている

(1) 思春期相談

令和3年度の相談は延べ88件(電話相談81件、来所相談7件)であった。相談対象者を性別に見ると男性29人(33.0%)、女性55人(62.5%)、不明4人(4.5%)である。相談内容で最も多いのは、「病気等に関すること」の相談37件で全相談件数の42.0%を占めている。

	電話相談				来所相談			
	男	女	不明	総数	男	女	不明	総数
1 病気等に関すること	10	25	1	36	1			1
2 性格行動上の問題		1		1				
3 人間関係に関する問題	1	3		4				
4 性に関すること								
5 依存の問題	9	8		17	5	1		6
6 教育しつけに関すること		1		1				
7 思春期の心身の悩み		3		3				
8 非行・反社会的行動に関すること								
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	1	10		11				
10 その他	2	3	3	8				
合計	23	54	4	81	6	1	0	7
(再掲) 発達障害の相談	1	2		3	1			1

(2) 依存に関する相談(うちアルコール関連問題に関する相談)

令和3年度の酒害に関する電話、来所相談の総数は92件あり、電話相談78件、来所相談14件であった。相談対象者を性別に見ると、男性64件(69.6%)、女性28件(30.4%)になっている。

	電話相談				来所相談			
	男	女	不明	総数	男	女	不明	総数
1 酒害	55	23		78	9	5		14
2 薬物	11	10	2	23	1	1		2
3 ギャンブル	63	16	3	82	36	5		41
4 ゲーム	13	3		16	6	1		7
5 その他	8	13	1	22				
合計	150	65	6	221	52	12	0	64

5 診療

当センターでは精神保健相談の一環として、必要に応じ診療を行っている。
令和3年度の診療状況は実人員2人、延べ5人であった。

(1) 年齢別年度推移(延人員)

年齢別	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
0～9						
10～19	4	1	2	2		
20～29		2	2	3	3	
30～39		1	2	2	1	5
40～49	1	1				
50～59	1		1	2		
60～69						
70～						
計	6	5	7	9	4	5

(2) 内訳・月別診療延べ人数(実人員2人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ひきこもり		1		1			1			1			4
児童・思春期													0
複雑困難事例							1						1
依存症													
計	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	5

6 ギャンブル障害(依存症)回復プログラム

ギャンブルの問題を抱える当事者支援として、下記事業を実施。

実施日時	第4火曜日 15時～16時半
実施回数	前期(令和3年4月～9月)5回、後期(令和3年10月～令和4年3月)4回
実施内容	認知行動療法(SAT-G)
参加延人数	48人(登録人数22人 平均人数5人)
職員	4人(看護師、作業療法士、精神保健福祉士、保健師他)

7 新型コロナウイルス感染症に対応した心のケア支援事業

厚生労働省のみだしの通知に基づき、令和2年6月から専用回線による電話相談を開始、同年8月から業務委託先の沖縄県公認心理師協会と連携しクラスター発生施設等職員のメンタルヘルス支援を、9月から情報共有を図るため定期的な実務者オンライン会議を開催している。また、令和3年度は県コロナ対策本部と県心理師協会と調整し、令和4年1月から宿泊療養施設への支援が開始している。

(1) 相談対象者の性別・年代別

	性別				年 齢									
	男	女	不明	計	～19	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	
相談延件数	52	91	1	144	0	5	8	3	10	12	3	1	102	

(2) 相談内容

1	感染症そのもの(相談者本人・家族の感染への不安、人に感染させる不安、疾患に関する疑問など)	49
2	感染症にまつわる差別や偏見	3
3	国や自治体の対応への不満	5
4	行動制限(外出、買い物等)	8
5	家庭問題(家庭内のストレスの増加、緊張感の増大、DV、虐待、コロナ離婚等)	8
6	勤務内容の逼迫(労働時間の増加、緊張感の増加等)	2
7	勤務先の感染対策の不備	1
8	職業生活様式の変化(一時帰休、自宅待機、在宅勤務)	4
9	失業、収入減少(コロナ解雇、派遣切り等)	4
10	生活困窮	1
11	経営難、営業自粛	1
12	後遺症(身体症状)	17
13	ワクチン接種・副反応に対する不安	7
14	ワクチン接種後の副反応	2
15	健康問題、感染症以外の病気(通院自粛、手術の延期等)	2
16	余暇の制限(レジャー施設・スポーツジム等の閉鎖、旅行制限)	1
17	その他 (心のケア体制への問い合わせ、Cocoaについて、他県の電話相談、時短要請について)	29
		計 144

※厚生労働省「新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査」より一部項目改変

(3) 沖縄県公認心理師協会とクラスター発生施設等関係機関をつなぐ連絡調整

施設数	訪問	オンライン会議	施設の内訳
19	7	12	医療機関(9)、高齢者施設(9) 障害者施設(1)

(4) 実務者オンライン会議等(県コロナ本部と宿泊療養施設とのオンライン会議を含む)

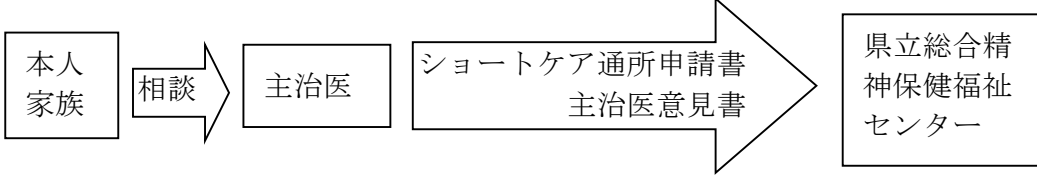
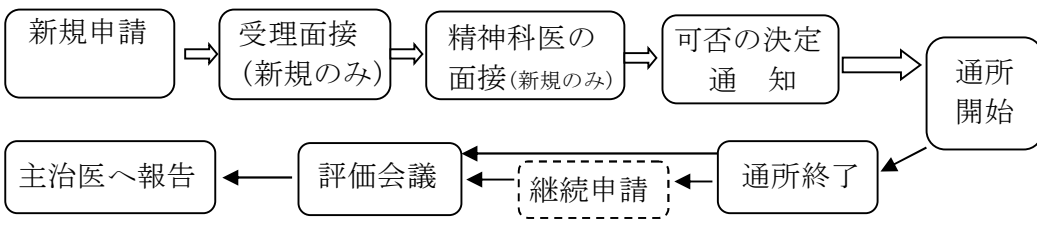
実施月	回数	参加機関
令和4年 2月を除く 11ヶ月	40回	DPAT 統括者及び先遣隊隊員、沖縄県公認心理師協会 精神科リエゾン医師、地域保健課、県コロナ対策本部、 宿泊療養施設、当センター等

(Ⅲ) デイケア及び家族支援事業

1 薬物・アルコール依存症ショートケア

(1) 薬物・アルコール依存症ショートケア概要

平成 28 年 10 月より、認知行動療法 (SMARPP) と作業療法を用いた、「薬物・アルコール依存症ショートケア」を開始した。

目的	薬物あるいはアルコール依存症と診断された方の健康回復と社会参加促進及び生活の質の向上を図る。
対象者	薬物依存症、アルコール依存症と診断された、おおむね 18 歳以上の者
定員	20 人
日時	毎週木曜日 9 時 30 分～12 時 30 分 (3 時間) ※健康チェック・医師面接 9 時～
実施期間	前期:4 月～9 月 後期:10 月～3 月 随時受入可 (途中からの参加も認める)
費用	医療保険、自立支援医療費 (精神通院) を適用 ※交通費は自己負担
内容	① 認知行動療法 = CBT (物質使用障害治療プログラム = SMARPP) ② 作業療法: 陶芸、革細工、ヨガ 等 ③ 必要に応じて個別相談
申込み方法	※通所申請書に精神科主治医意見書を添えて申し込む 
申請から終了までの流れ	
評価報告書	クール終了後に医師、心理士、作業療法士を中心に「評価報告書」を作成し、各主治医へ送付する。
スタッフ	精神科医 作業療法士 看護師 保健師 心理士 ※上記より精神科医と作業療法士を中心に参加 ※CBT へ沖縄ダルクや琉球 GAIA より当事者スタッフを招聘 ※作業療法 (ヨガ・陶芸・革細工) には、各専門講師を招聘
記録類	① 日誌 ② 個人記録 ③ 出席簿 ④ 評価報告書

(2) 薬物・アルコール依存症ショートケア利用者状況

令和3年度は、前期のみ実施。後期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

① 性別・年齢別利用者数(人)

年齢区分 性別	10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
前期	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3	0
	0		0		1		1		1		0		3	

② 保健所圏域別利用者数(人)

保健所 期	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	合計
前期	0	0	2	1	0	0	3

③ 参加状況

期	項目 性別	登録者数	新規 登録数	参加延数	1日平均 参加人数
	前期	男	3	0	19
女		0	0	0	0.0
計		3	0	19	1.9

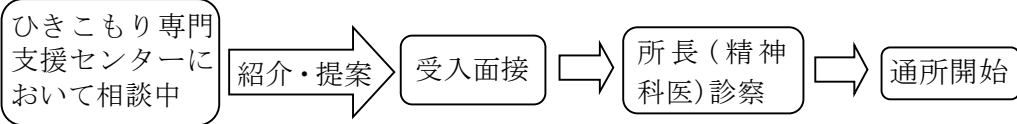
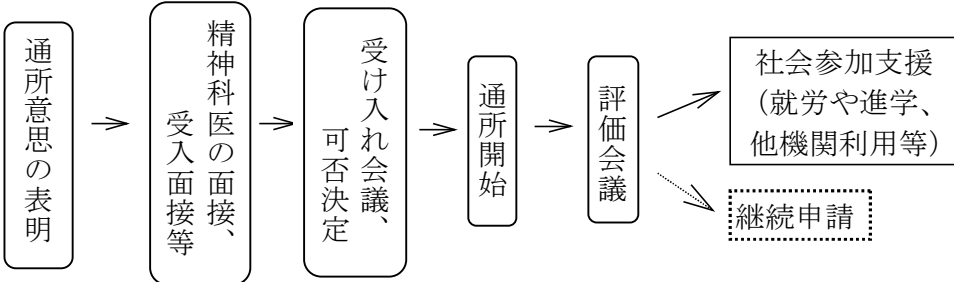
④ プログラム別実施状況(回)

項目	前期
開始式・オリエンテーション・自己評価	0
認知行動療法(物質使用障害治療プログラム)	10
ヨガ	2
陶芸	5
革細工	1
料理・懇親会	0
修了式・自己評価・アンケート・懇親会	0
計	18

2 ひきこもりショートケア

(1) ひきこもりショートケア概要

当センターでは、平成 29 年 2 月よりひきこもりデイケアを開始し、令和 2 年 4 月からはショートケア（3 時間）として実施。個別の相談・支援を行うと共に、集団の効果を活かしたアプローチを行い、基本的なソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを身につけ就学・就労など社会の中で自分らしく生きることを目的とする。

目 的	ひきこもり当事者に対して、個別活動や集団活動等を通して自己受容や自信の回復を促進し、社会参加及び生活の質の向上を図る。
対 象 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり専門支援センターから紹介がある方 ・ 中学校卒業以降の方
定 員	・ 概ね 10 名程度
回数・時間	・ 毎週火曜日 ・ 9 時 30 分～12 時 30 分までの 3 時間
通所期間	・ 原則、2 年まで通所利用できるとするが、本人の要望や支援の状況に応じて継続通所も可能
費 用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通費は自己負担 ・ デイケア料等の医療費は、医療保険、自立支援医療費（精神通院）を適用。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回復段階に応じ、個別の並行活動（読書、勉強、ゲーム、くつろぎ、トークなど）、小集団活動（陶芸、革工芸、園芸、スポーツなど）、社会資源の体験会、外出等実施
申 込 方 法	<p>・ 通所を希望する者は、ひきこもり専門支援センターを通して申込む。ひきこもり専門支援センターの職員は、相談支援の過程でショートケア通所が適当と思われる当事者については、ショートケアを紹介し、受理会議及び所内カンファレンスで提案する。</p>  <pre> graph LR A[ひきこもり専門支援センターにおいて相談中] --> B[紹介・提案] B --> C[受入面接] C --> D[所長（精神科医）診察] D --> E[通所開始] </pre>
申請から終了まで	 <pre> graph LR A[通所意思の表明] --> B[精神科医の面接、受入面接等] B --> C[受け入れ会議、可否決定] C --> D[通所開始] D --> E[評価会議] E --> F[社会参加支援（就労や進学、他機関利用等）] E --> G[継続申請] </pre>
他機関への経過報告	継続支援に係る機関に対してショートケア評価報告書（任意様式）を送付する
スタッフ	①精神科医師 ②作業療法士 ③看護師 ④保健師 ⑤心理士
記録類	①日誌 ②個別記録 ③出席簿 ④臨床評価報告書 等

(2) ひきこもりショートケア利用者の状況

① 性別・年齢別利用者数(人) ※体験利用者を含む

年齢区分	15～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		計	
期	性別		性別		性別		性別		性別		性別		性別	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
通年 (4～3月)	0	1	6	2	1	3	2	1	0	0	0	0	9	7
	1		8		4		3		0		0		16	

② 保健所圏域別利用者数(人) ※体験利用者を含む

期	保健所							合計
	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山		
通年	0	4	5	7	0	0	16	

③ 参加状況 ※体験利用者を含む

	項目		通所者数	参加延数
	性別			
通年	男		9	173
	女		7	131
	計		16	304

④ プログラム別実施状況

項目	回数
クッキング	1
陶芸	2
所外活動(施設見学等)	3
革工芸	12
スポーツ(卓球・グランドゴルフ等)	4
園芸	20
制作活動(季節の作品)	6
学習会	5
計	53

上記はメインの活動。パラレルな自主活動をベースとし、上記活動を実施。
また、個別面談、卓上ゲーム、筋肉トレーニングなどを取り入れた。

3 家族支援

(1) ひきこもり家族教室

目 的:家族がひきこもりの知識と当事者への対応を学び、家族同士の情報交換や交流を図ることで、家族が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者:ひきこもり専門支援センターで支援している家族

場 所:当センター 2階教育研修室

開催日	内 容	参加者
第1回 R3年 4月30日(金)	講話:「ひきこもりの長期化と心の病気」 講師:当センター所長 医師 宮川 治	13家族 13人
第2回 R3年 7月14日(水)	新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発出(5/23~9/30)のため、中止	
第3回 R3年 11月10日(水)	講話:「ひきこもりの理解のために」 講師:当センター相談指導班主任(心理士) 国頭 ゆきみ 家族同士の交流会	10家族 12人
第4回 R4年 2月2日(水)	新型コロナウイルスの急激な感染拡大とまん延防止等重点措置の対象地域(1/9~2/20)となった状況を鑑み、中止	
	延べ数	23家族 25人

(2) ひきこもり家族向け講演会

目 的:家族がひきこもりの知識を得ることや当事者への対応方法を学ぶことを通して、家族自身が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者:ひきこもり専門支援センターを利用している家族、県内の家族会会員、当事者(当センターを利用している方を中心に募集)

場 所:沖縄産業支援センター1階大ホール

開催日	内 容	参加者
R3年 12月4日 (土)	講話:「家族にとってのひきこもり問題 ~本人の思いと家族の願い~」 講師:和歌山県精神保健福祉センター所長 精神科医 小野 善郎 氏	25家族 30人

(IV) 教育研修、普及啓発、技術援助、組織育成支援

1 教育研修

地域における精神保健の充実を図るため、保健所、関係機関の職員に対して、研修会等を実施した。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当初計画していたアディクションフォーラム、自殺対策支援者研修は中止となった。

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
精神保健福祉担当職員初任者研修 R3年5月26日(水) 9:00～16:30 ※Zoom を用いたオンライン研修	1 沖縄県の精神保健福祉の動向について 講師: 県地域保健課副参事兼精神保健班 班長 新里 逸子 氏 2 保健所の役割について 講師: 北部保健所 地域保健班 班長 金城 房枝 氏 3 障害者総合支援法及び障害福祉サービスについて 講師: 県障害福祉課 主査 饒波 正也 氏 4 精神障がい者の理解と対応の仕方 講師: 総合精神保健福祉センター 所長 宮川 治 5 精神通院医療費公費負担制度及び精神障害者保健福祉手帳制度 講師: 総合精神保健福祉センター 総務法定班 主査 仲里 綾子 6 地域活動支援センターについて及び利用者の声 講師: 八重瀬町地域活動支援センター サザンウィンド 職員及び利用者 7 発達障がい者の理解と支援 講師: 沖縄県発達障がい者支援センター がじゅま〜る 嘉陽 真由美 氏 8 総合精神保健福祉センターの概要と事業紹介 講師: 総合精神保健福祉センター 相談指導班 班長 儀保 恵美子	対象: 市町村、保健所及び福祉事務所において令和 3 年度に新たに精神保健福祉業務に従事する者 参加者: 85 人 (32 機関)
アルコール依存症支援者研修 R3年6月2日(水) 14:00～16:30 ※Zoom を用いたオンライン研修	1 アルコール依存症の理解 2 アルコール依存症への関わり方 3 アルコール健康障害への早期介入 講師: 琉球病院依存症治療病棟医長 手塚 幸雄 氏	対象: 保健所、福祉事務所、市町村、医療機関でアルコール依存症者の回復支援に従事する者 参加者: 100 人 (60 機関)

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
PFA(心理的応急処置)講演会 R3年7月16日(金) 9:30～11:30 ※Zoom を用いたオンライン研修	内容:概論、活動原則、ワーク、セルフケアや同僚へのケアなど 講師:琉球大学人文社会学部人間社会学科 心理学プログラム 教授 伊藤 義徳 氏	対象:市町村・保健所職員等 参加者:20人 (10 機関)
新型コロナウイルス感染症に対応した災害派遣精神医療チーム(DPAT)特別研修 R3年7月16日(金) 13:00～17:30 ※Zoom を用いたオンライン研修	講師及びファシリテーター:琉球病院、平安病院、精和病院、南部医療センター、DPAT 事務局から6名 内容: プログラム1 講義 DPAT 活動における CSCA プログラム2 講義 沖縄県新型コロナウイルス感染症等対策本部の概要とDPAT 調整本部の役割 プログラム3 講義 発生病棟の感染対策 プログラム4 講義 発生病院の院内対策本部 プログラム5 講義 組織運営・治療・隔離解除 プログラム6 演習 シミュレーション 質疑応答・まとめ	対象:県内DPAT登録機関職員 参加者:88人 (14 機関)
精神障害者地域移行・地域定着支援研修 R3年8月11日(水) 13:30～16:30 ※Zoom を用いたオンライン研修	講話:「リカバリーとピアサポート ～主体的に生きる道のりに寄り添う関わり～」 講師:東京学芸大学教育心理学講座准教授 福井里江氏 聖徳大学児童研究科 ピアサポーター 村松秀樹氏 ピアサポーター事業報告: 沖縄県作業療法士会 坂本将史 氏 地域生活支援センターウェーブ 新垣優一郎 氏 北谷町障がい者地域活動支援センターたんぽぽ 宮城氏・楠本氏 沖縄リハビリテーションセンター病院 川平哲郎 氏 グループワーク(意見交換)	対象:精神科医療機関及び保健所・市町村・福祉事務所・各事業所等職員 (看護師・PSW・OT・心理士・保健師等) 参加者:89人 (38 機関)
ゲートキーパー養成研修(思春期相談機関職員等対象) R3年8月19日(木) 14:00～16:00 ※Zoom を用いたオンライン研修	テーマ:『学校における自殺予防 ～自殺リスクへの対応と自殺予防教育～』 講師:東京都立大学 人文社会学部人間社会学科 准教授 勝又 陽太郎 氏	対象:学校職員等 参加者:162人 (77 機関)

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
アディクション支援者 研修 R3年9月15日(水) 13:00～16:30 ※Zoom を用いたオン ライン研修	①講話:身体救急病院からみえる依存 ～薬物・アルコール・ゲームへの対応～ 講師:沖縄協同病院精神科医 小松 知己 氏 ②総合精神保健福祉センターの紹介等情報提供	対象:市町村・民 間支援団体・教 育機関・保健所 等 参加者:160人 (65機関)
自死遺族支援者研修 R3年10月19日(火) 14:00～16:00 ※Zoom を用いたオン ライン研修	講話:自死遺族を支えるために ～支援者として心がけたいこと 講師:NPO 法人全国自死遺族総合支援センター 代表 杉本 脩子 氏	対象 保健・医療・福祉 関係職員等 参加者:41人 (26機関)
ギャンブル障害支援者 研修 R3年11月11日(木) 13時～16時30分 ※Zoom を用いたオン ライン研修	1 「ギャンブル障害の理解と治療・回復支援」 講師:リカバリーサポート・ネットワーク代表理事/精神 科医 西村直之 氏 2 「借金問題への適切な対処法」 講師:ワンデーポート理事/司法書士 稲村 厚 氏	対象:保健所・福 祉事務所・市町 村、医療機関、 回復施設等にお いてギャンブル 障害(依存症)の 回復支援に従事 する者 参加者:163人 (63機関)
かかりつけ医等心の健 康対応力向上研修 R3年11月22日(月) 19:00～21:00 ※Zoom を用いたオン ライン研修 ※後援:沖縄県医師会	第1部 座長 山本クリニック院長 山本 和儀 氏 テーマ:「コロナ禍における県民のメンタルヘルス ～新型コロナウイルス感染症に関するメンタル ヘルス支援を通して～」 講師:発達相談クリニックそえ～る 診療支援科長/沖縄 公認心理師協会 平安 良次 氏 第2部 座長 琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学 講座 教授 近藤 毅 氏 テーマ:「自殺予防はみんなの仕事 ～継続すべきこととコロナ禍でのポイントについて」 講師:日本うつ病センター・六番町クリニック 院長/日本 自殺予防学会 理事長 張 賢徳 氏	対象:内科医等 かかりつけ医、精 神科医、医療保 健福祉関係者等 参加者:78人 (65機関)

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
ひきこもり支援者研修 R3年12月3日(金) 10:00~15:30 ※Zoom を用いたオンライン研修	全国精神保健福祉センター長会と共催 講話:「ひきこもりの基礎理解」 「ひきこもり相談への対応と支援」 「中高年層のひきこもりについて」 「8050への対応について」 「発達障害の理解と支援」 講師:鳥取県立精神保健福祉センター所長 精神科医 原田 豊 氏 開催地からの報告、事例紹介	参加者:94人 (60機関)
災害派遣精神医療チーム(DPAT)研修会 R3年12月15日(水) 9:00~17:15 ※Zoom を用いたオンライン研修	講師及びファシリテーター:沖縄赤十字病院、琉球病院、精和病院、平安病院、南部医療センター、琉球こころのクリニック、地域保健課等から20名(医師、看護師、心理師、精神保健福祉士、薬剤師、作業療法士、事務・行政職等) 内容:講義及び演習 プログラム1 講義 災害医療概論 プログラム2 講義 県内の災害医療体制 プログラム3 講義 ロジスティクス概論・情報支援システム プログラム4 講義 DPAT への出動要請について (発災時からDPAT 派遣要請まで) プログラム5 講義・ワーク DPAT のトピックス 令和2年7月豪雨におけるDPAT 活動 (派遣の準備から活動終了まで) プログラム6 机上演習 本部運営と情報管理・記録 プログラム7 演習準備・想定付与 プログラム8 大規模災害演習① プログラム9 大規模災害演習② 全体まとめ、確認テスト、アンケート回答	対象: 県内 DPAT 登録 機関職員 修了者:58人 (10機関) ※オブザーバー 等参加は除く
ゲーム・ネット依存勉強会 R3年12月23日(木) ※Zoom を用いたオンライン研修	講話:「I Swing の使用方法について」 講師:三光病院 院長 海野 順 氏 意見交換	対象:琉球病院・ 当センター職員
自死遺族の分かち合いの会スタッフ技能維持研修 R4年3月19日(土) 16:00~18:00	講話:「オンライン形式の分かち合いの会」の運営について 講師:天久台病院診療部心理室 主任 早田 真吾 氏	対象:ボランティア スタッフ 参加者:6人

2 普及啓発

(1) 芸術・文化講座開催等事業(委託事業)

精神障害者が日頃から取り組んでいる創作活動や音楽活動等を広く発表する機会を設けることにより、精神障害者の活動意欲や自信を高め、生活の質の向上及び社会参加の促進、ならびに県民の精神障害者に対する理解を深めることを目的に開催する。

沖縄県作業療法士会へ委託。委託先が、運営委員会と実行委員会を設け、企画運営を行う。当センターは運営委員(所長)と実行委員(担当2名)として参加している。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、応募作品139点を作品集にまとめ、応募者と関係機関へ配布した。

(2) 刊行物

行政資料名	定期・不定期	発行部数	規格	ページ数
総合精神保健福祉センター所報(令和2年度実績)	定期	ホームページ掲載	A4	44

3 技術援助・連絡会議

(1) 技術指導・援助状況

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健所、市町村、その他の関係機関、団体等に対して研修会・講演会への講師派遣、各種委員会・ケース会議への参加及び各種会議を開催し、専門的な立場から技術指導及び技術援助を行っている。

	技術指導・援助（延件数）													
	老人保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	合計
保健所			6						1				4	11
市町村									11				8	19
福祉事務所									1					1
医療施設		6	13						1			13	287	320
介護老人保健施設														
障害者支援施設									3					3
社会復帰施設									3					3
その他		9	19						9	16	65	5	100	223
合計	0	15	38	0	0	0	0	0	29	16	65	18	399	580
実施件数	0	15	1	0	0	0	0	0	7	2	65	5	62	157

※実施件数は当センターが技術指導・援助を行った件数を実数で計上している。

(集会教育などは、指導対象施設それぞれに1ずつ計上しているが、実施件数は1回として計上している。)

(2) 連携会議

ア アディクション連携会議

アディクション問題に関わる行政・保健・医療・福祉・司法等の関係機関、当事者や家族自助グループや回復施設等が一同に会し、共に学び、意見や情報を交換することで連携を深めることを目的に開催。

〔第1回〕

日時：令和3年7月8日(木) 14:00～16:00

会場：Webシステム (Zoom)

参加者：44名 (38機関)

内容：①県内依存症相談件数報告

②各参加機関あいさつ、業務紹介

③課題の提示

④情報共有

[第2回]

日時：令和3年11月26日(金) 14:00～16:00

※令和4年1月19日に延期し開催を検討するが、新型コロナウイルス感染急拡大をうけ中止とする。

会場：Web システム (Zoom)

内容：①報告：センターにおける令和3年度アディクション事業に関する現状報告
②地域における依存症に関する情報や課題の共有、研修計画の調整を目的に意見交換

イ 精神科救急医療責任者等連絡会 (P.34 参照)

ウ 精神科救急医療情報センター窓口相談員連絡会 (P.34 参照)

エ ひきこもり支援地域連絡協議会 (P.37 参照)

オ DPAT (災害派遣精神医療チーム) 体制整備事業に係る会議

(ア) 運営委員会

新型コロナウイルス感染症に係る精神科領域対応により1回延期し、中止した。

(イ) 沖縄県 DPAT 活動マニュアル検討委員会(開催なし)

(ウ) DPAT 研修企画調整会議

前記1(1)研修会のとおり、大規模災害時に備え、沖縄県 DPAT の養成を図るために毎年研修を開催している。開催にあたっては専門的な訓練を受けた DPAT 先遣隊隊員及び統括者の協力が不可欠であり、企画や内容の検討、講師調整のため、みだしの会議を開催した。

開催：年3回(5月12日、10月6日、11月17日)

参加者：概ね10人(医師、看護師、精神保健福祉士、公認心理師、事務職等)

参加機関：琉球病院、平安病院、南部医療センター、精和病院、琉球こころのクリニック、地域保健課、当センター等

内容：プログラム・開催方法の検討、講師・ファシリテーター役割分担等

カ 沖縄県発達障がい者支援センター・沖縄県立総合精神保健福祉センター連絡会議

沖縄県の発達障害児(者)支援体制の推進を図るため、沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま〜ると当センターの恒常的な連携が確保できることを目的に実施。

開催：年2回(令和3年5月10日、9月29日 各1時間半程度)

会場：発達障がい者支援センターがじゅま〜る、当センター

参加者：発達障がい者支援センターがじゅま〜る職員、当センター職員、ひきこもり専門支援センター相談員(計8～12名)

内容：各機関における実績概要紹介、情報・意見交換

(3) 講師等派遣

No.	日付	内 容	参加者数	主 催	対 象	講師等派遣職員
1	R3年5月10日(月)	酒害教育	5	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
2	R3年5月20日(木)	相談員基礎研修	60	おきなわ女性財団	相談業務担当職員	宮川 治
3	R3年5月20日(木)	公衆衛生看護活動論	40	名桜大学	学生	伊禮嘉宣
4	R3年5月24日(月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
5	R3年6月11日(金)	コロナ禍におけるメンタルヘルス	25	宮古介護福祉士の会等	施設職員等	宮里 豪
6	R3年7月1日(木)	ひきこもりのメカニズムとアセスメント	40	県社会福祉協議会	生活保護担当職員	伊禮嘉宣
7	R3年7月2日(金)	公衆衛生看護活動論	80	看護大学	学生	伊禮嘉宣
3	R3年7月9日(金)	ひきこもりの理解と支援	20	那覇市寄り添い支援員	社協職員、民生児童委員	国頭ゆきみ
9	R3年7月27日(火)	メンタルヘルス	10	沖縄刑務所	入所者	宮川 治
10	R3年7月28日(水)	子どものPTSD アセスメント研修	8	児童相談所	職員	宮里 豪
11	R3年8月2日(月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
12	R3年8月16日(月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
13	R3年10月15日～11月30日	ひきこもりについて知っておきたいこと YouTubu で動画配信	再生回数不明	牧志駅前ほしぞら公民館	市民	伊禮嘉宣
14	R3年10月29日(金)	包括支援センター職員研修「ひきこもりについて」	35	沖縄市介護保険課	包括支援センター職員	伊禮嘉宣
15	R3年11月2日(火)	森川特別支援学校講演会	20	森川特別支援学校	教職員	宮川 治
16	R3年11月8日(月)	酒害教育	5	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
17	R3年11月16日(火)	県立図書館職員研修	25	県立図書館	職員	伊禮嘉宣 坂本 緑
18	R3年11月22日(月)	酒害教育	5	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
19	R3年11月25日(木)	精神保健指定医講習会	600	全国自治体病院協議会	精神保健指定医	宮川 治
20	R3年12月12日(日)	日本公認心理師学会(指定討論) ライブ配信	再生回数不明	公認心理師協会	公認心理師	宮川 治
21	R3年12月20日(月)	薬物依存症講義	30	保護観察所	職員	宮川 治
22	R4年1月15日(土)	名護市民講座「ひきこもりの理解と回復への道筋を考える講座」	21	名護市生活支援課	市民	伊禮嘉宣
23	R4年2月7日(月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
24	R4年2月21日(月)	酒害教育	5	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳

4 組織育成支援

(1) 自死遺族の「分かち合い」の会

自死遺族が安心して自らの痛みと向き合うことのできる「分かち合いの場」を提供し、参加する一人ひとりが抱えている悲しみを共有することによって癒やされ、自分のペースで回復していけることを目的に、平成19年度からファシリテーター養成を行い、平成20年度から自死遺族の「分かち合い」の会を開催している。令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、6～9月、1月及び2月を中止した。年6回開催し、参加者は実数9人(新規8人、前年度以前に参加があった方1人)、延22人であった。

対象者：大切な人(配偶者、親、子ども、兄弟姉妹)を自死(自殺)によって亡くされた方。原則として、20歳以上。

場 所：当センター・ダイルーム

開催日時：毎月第3土曜日、14時～16時(13時半受付)

参加方法：当日参加(予約なし)

スタッフ：養成研修を終了したボランティアスタッフとセンター職員で行っている。

内 容：基本は小グループで分かち合い(語り合い)、状況に応じ個別面談を行う。

自死遺族の「分かち合い」の会開催・参加状況

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者数	0	1					5	7	6			3	22
スタッフ	4(1)	3(1)					4(1)	4(1)	4(1)			4(1)	23(6)

※スタッフのうち、カッコ内は当センター職員(再掲)

(2) 自助グループ等支援

精神保健福祉に関連する自助グループの集いやミーティング開催のために、当センター施設の一部の借用を認め、自助グループ運営を支援していた。令和3年度は当センターの大規模改修工事のため借用を中止した。

(V) 精神科救急医療体制

1 精神科救急医療情報センター相談窓口の受信状況

県は、精神科救急医療体制整備事業を行っている。その事業の中に精神科医療を必要とする者が、いつでも安心して相談や受診ができるよう、休日・夜間等の外来診療時間外において、精神科救急医療情報センターを設置。電話相談、精神科救急医療施設への受入調整等を行っている。総合精神保健福祉センターは、その事業実績をまとめており、令和3年度の結果は以下のとおりであった。

令和2年10月から後夜帯を再開した。

(1) 勤務帯別受信状況と開設回数

勤務帯 (回数)	相談者	受信件数	精神科医療施設紹介(※1)											救急告示病院紹介	電話相談		その他 (※2)	
			当番病院紹介				当番日以外の精神科救急医療施設紹介				かかりつけ病院紹介				相談機関案内	指導助言		
			合計	入院	外来	受診なし	合計	入院	外来	受診なし	合計	入院	外来					受診なし
休日 (日勤) (123回)	本人	716	27	3	23	1	0	0	0	0	1	0	1	0	5	3	602	78
	家族	241	70	24	41	5	1	0	1	0	0	0	0	0	9	3	151	7
	関係者	153	32	16	16	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	64	53
	その他	40	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	24	11
	合計	1150	131	43	81	7	2	0	2	0	1	0	1	0	18	8	841	149
前夜 (365回)	本人	2146	32	5	21	6	0	0	0	0	0	0	0	13	13	1878	210	
	家族	468	105	42	51	12	0	0	0	0	0	0	0	23	3	320	17	
	関係者	361	95	65	25	5	0	0	0	0	0	0	0	5	1	171	89	
	その他	79	9	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	4	1	43	22	
	合計	3054	241	114	102	25	0	0	0	0	0	0	0	45	18	2412	338	
後夜 (364回)	本人	1089	9	1	7	1	1	0	1	0	0	0	0	13	1	975	90	
	家族	124	33	16	13	4	1	1	0	0	0	0	0	9	0	80	1	
	関係者	97	22	15	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	32	
	その他	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	
	合計	1332	64	32	26	6	2	1	1	0	0	0	0	22	1	1109	134	
合計 (852回)	本人	3951	68	9	51	8	1	0	1	0	1	0	1	31	17	3455	378	
	家族	833	208	82	105	21	2	1	1	0	0	0	0	41	6	551	25	
	関係者	611	149	96	47	6	1	0	1	0	0	0	0	8	1	278	174	
	その他	141	11	2	6	3	0	0	0	0	0	0	0	5	3	78	44	
	総計	5536	436	189	209	38	4	1	3	0	1	0	1	85	27	4362	621	

※1 精神科救急医療施設とは輪番病院である18施設のこと。

※2 その他とは病院間の連絡、精神科救急医療情報センターのシステムの説明、精神科以外の相談・問い合わせ等

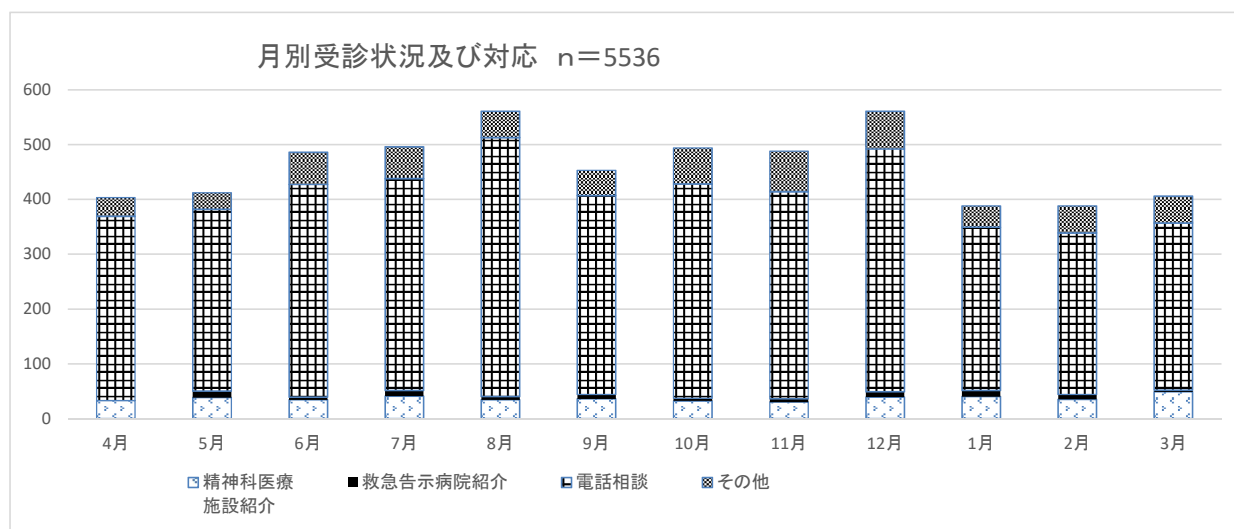
(2) 月別受信状況及び対応

令和3年4月1日～令和4年3月31日

月 日(回数)	総 受 信 件 数	精神科医療施設紹介(※1)												救 急 告 示 病 院 紹 介	電話相談		そ の 他 (※2)
		当番病院紹介				当番日以外の精神科 救急医療施設紹介				かかりつけ病院紹介					相 談 機 関 案 内	指 導 助 言	
		合 計	入 院	外 来	受 診 な し	合 計	入 院	外 来	受 診 な し	合 計	入 院	外 来	受 診 な し				
令和3年 4月 30日(69回)	403	31	12	12	7	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	335	34
5月 31日(75回)	412	36	19	17	0	1	0	1	0	1	0	1	0	12	1	331	30
6月 30日(68回)	486	34	16	15	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	385	59
7月 31日(72回)	496	41	15	21	5	0	0	0	0	0	0	0	0	10	7	380	58
8月 31日(72回)	561	34	15	18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	472	48
9月 30日(70回)	453	36	13	21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	3	360	46
10月 31日(72回)	494	32	16	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	388	66
11月 30日(70回)	488	29	12	13	4	1	0	1	0	0	0	0	0	6	0	378	74
12月 31日(73回)	561	39	17	17	5	0	0	0	0	0	0	0	0	10	5	438	69
令和4年 1月 31日(74回)	388	40	17	20	3	0	0	0	0	0	0	0	0	11	3	295	39
2月 28日(66回)	388	35	15	17	3	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	295	49
3月 31日(71回)	406	49	22	23	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	305	49
合計 365日(852回)	5536	436	189	209	38	4	1	3	0	1	0	1	0	85	27	4362	621

※1 精神科救急医療施設とは輪番病院である18施設のこと。

※2 その他とは病院間の連絡、システム説明、精神科以外の相談・問い合わせ等のこと。



月別受信状況と対応はグラフのとおりで月平均受信件数は 461.3 件であった。

2 精神科救急医療連絡会

(1) 精神科救急医療責任者等連絡会

精神科救急医療情報センターの体制整備及び円滑な運営を図ることを目的として開催する。

月 日	内 容	参加数・構成員
第 1 回 R3 年 6 月 14 日(月)	新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止	<参加人数> 第 1 回：中止 第 2 回：46 名 <構成機関>
第 2 回 R3 年 12 月 13 日 (月) 14:00～16:00 沖縄県医師会館	1 令和 2 年度精神科救急医療情報システムの実績報告 2 令和 2 年度精神科救急医療体制連絡調整委員会の報告 3 協議・確認事項 1) 救急情報センターの相談受付について 2) 精神科救急医療機関の受け入れ対象の患者さんの判断に関して 3) かかりつけ病院の個室の空床がないとことで、受診・入院受け入れが進まず、長時間対応を要した事例 4) 思春期、飲酒後リストカットや飛び降りようとした事例 4 意見交換・その他 1) 精神科救急医療の新型コロナウイルス感染症の体制について 2) 救急当番日に、当番翌日の措置入院受け入れの依頼があった件 3) 措置診察の基準 4) 措置入院における「かかりつけ病院」かつ「当番病院」である医療機関が、入院を受け入れられない場合の対応について	1 沖縄県医師会 2 精神科病院協会 3 外来精神科医会 4 精神保健福祉協会 5 防災危機管理課 6 警察本部 7 救急告示病院 8 精神保健福祉士協会 9 日本精神科看護協会 沖縄支部 10 琉球大学病院 11 精和病院 12 琉球病院 13 南部医療センター 14 保健所 15 県地域保健課 16 精神科救急窓口相談員 17 当センター 18 その他所長が必要と認めた者(各MC協議会)

(2) 精神科救急医療情報センター窓口相談員連絡会

当初、令和 3 年 8 月及び令和 4 年 2 月の 2 回開催を予定していた窓口相談員連絡会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

今年度は、窓口相談員の情報共有のため、窓口相談員の情報共有会を開催した。

日 時	内 容	参加人数
窓口相談員の情報共有会 R3 年 11 月 24 日(水) 14:00～16:00	1 事例 1 例 2 その他意見交換 2 例	参加:8 人 (相談員 4 人、協会 2 人 当センター 2 人)

(VI) ひきこもり専門支援センター事業**1 ひきこもり専門支援センター概要**

ひきこもり※状態にある本人及び家族等を支援するとともに、関係機関と連携することにより、ひきこもり状態にある本人の自立を促進し、本人及び家族の福祉の増進を図るため、H28年4月に開所し、同年10月より相談業務を開始した。

※ひきこもりの定義…様々な要因の結果として社会参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6カ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は少なくないことに留意すべきである。(2010年 ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン)

2 業務内容**(1) ひきこもりに関する相談支援****ア 相談支援体制**

ひきこもり専門支援センターでは、ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師等の資格を有する者)を3名配置し、ひきこもりに関する相談支援を行っている。相談方法は、主に電話相談、来所相談、訪問など適宜必要な支援を実施している。

電話相談は、月曜日～金曜日(祝日、年末年始、慰霊の日を除く)の10時～12時、13時～16時受付。来所相談は予約制となっている。

イ 相談件数(延べ数)

相談延べ件数は、電話相談1,312件、来所相談361件、メール・文書の送付(手紙を送る等)162件、訪問支援62件、延べ総数は1,897件であった。前年度の相談延べ件数(1,862件)と同様。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、定期面談を一時中断したり、相談を控えたりしたケースもあった。訪問支援は、家庭訪問や同行支援(本人と関係機関の見学、病院受診等)であった。

相談対応件数

支援方法	相談者内訳				延総数
	本人	家族	関係機関	その他 (親族・知人等)	
電話	147	879	248	38	1,312
来所	48	303	9	1	361
訪問	32	25	2	3	62
メール・手紙等	91	64	6	1	162
延総数	318	1,271	265	43	1,897

ウ ひきこもり相談対象者の概要

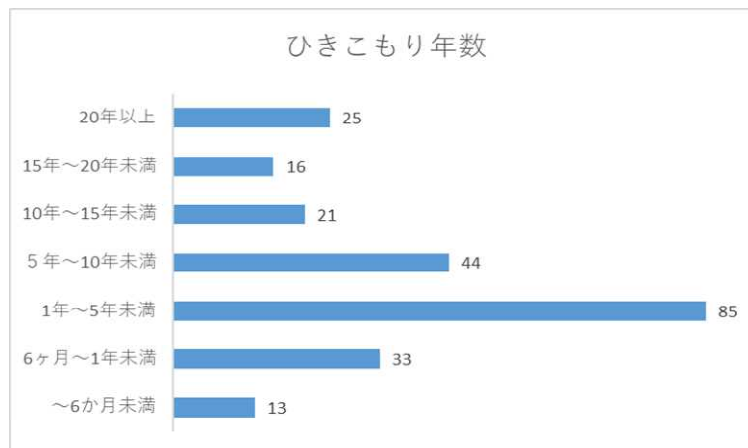
相談実人員数は 278 人。そのうち男性は 189 人(68.0%)、女性は 82 人(29.5%)で対象者は男性が多かった。年代別では、20代 70 人(25.2%)、30代 59 人(21.2%)、40代 66 人(23.7%)と、対象者は 20～40 代の割合が多くなっていた。いわゆる「8050 問題」に該当する可能性の高い、50 代以上の相談は 30 人(10.8%)であった。

相談実人員

	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	不明	総数
男性	1	23	44	44	50	18	7	2	189
女性	0	17	25	15	16	5	0	4	82
不明	1	3	1	0	0	0	0	2	7
総数	2	43	70	59	66	23	7	8	278

エ 相談対象者のひきこもり年数

相談対象者 278 人中、ひきこもり状態である年数が把握できたケースは 237 人であった。それ以外の 41 人は、ひきこもり年数不明あるいは、ひきこもりではない相談(病気について・家族の悩み等)であった。1～5 年未満が 85 人(35.9%)と最も多く、次いで 5～10 年未満が 44 人(18.6%)であった。10 年以上にわたる長期のひきこもり者は 62 人で、全体の 26.2%に上っている。



オ 処遇

令和 3 年度中に支援終了したケースは 139 人。支援終了の内訳は、助言終了 95 人、関係機関にて支援 21 人、就労等のため支援終了 10 人、中断 13 人であった。次年度へ支援を継続するケースは 139 人である。

支援終了者の内訳

内訳	ケース実数	計
助言終了	95	139
関係機関にて支援	21	
就労等	10	
中断	13	

(2) 受理会議

目的:継続支援の可否や支援方針の決定

日時:毎週水曜日(8:45～10:00)、その他適宜

出席者:相談指導班長(保健師)、ひきこもり支援担当職員(保健師、心理士)、ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師)

(3) ひきこもり支援機関事例検討会

事例を通し、関係機関職員の相談技術の向上を図るとともに、適切な支援方法について検討し、関係機関との連携を強化する。

開催日	参加機関	参加人数	事例数
R3年12月16日 (木)	那覇市保健所	1機関4人	1
	延べ数	1機関4人	1事例

(4) ひきこもり支援地域連絡協議会

ひきこもりの状態にある本人及び家族を孤立させることなく、住み慣れた地域の既存の社会資源(医療、保健、福祉、教育、就労等の関係機関)が連携し、適切な支援ができるよう、連絡協議会を設置する。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け北部・中部・那覇地区の協議会が中止となった。

地区	日程	会場	内容	参加機関	参加人数
南部	R3年 11月24日 (水)	総合福祉センター	講話：「養蜂から見えてきた地域作り～若者支援のかたち～」 講師：Bee Free 代表 宮城仁太郎 氏 協議（意見交換会）	市町村担当課、相談支援事業所、社会福祉協議会、保健所、福祉事務所、青少年センター、パーソナルサポートセンター、医療機関、民間団体	32人 (21機関)
宮古	R3年 5月28日 (金)	Web会議 (*Zoomを使用)	講話：「ひきこもりのメカニズムと支援者としての心構え」 講師：当センター所長医師 宮川 治 協議（意見交換会）	市町村担当課	3人 (2機関)
八重山	R4年 1月8日 (土)	オンライン (Zoom)	講話：「ひきこもりの基礎理解」 講師：当センター所長 医師 宮川 治 協議：” 父母亡き後の独居ひきこもり” から考える地域包括ケアのあり方(当センター支援ケースを例に協議)	市町村担当課、青少年センター、相談支援機関、民生委員児童委員協議会、訪問看護ステーション、保健所、福祉事務所	14人 (7機関)

(5) ひきこもり支援者研修会（再掲）

目的：各機関の相談員や支援者が、ひきこもりやその家族支援について学び、スキルを学習することにより、相談に対する不安を取り除き、持続的な家族支援やひきこもり支援ができることを目的とする。今年度は、コロナ禍での支援のあり方をテーマとした。

対象者：ひきこもりの支援に従事する関係機関

開催日	場所	内 容	参加者
R3年 12月3日(金) 10:00~15:30	沖縄県医師会館3階ホール	講話:「ひきこもりの基礎理解」 「ひきこもり相談への対応と支援」 「中高年層のひきこもりについて」 「8050への対応について」 「発達障害の理解と支援」 講師:鳥取県立精神保健福祉センター所長 精神科医 原田 豊 氏 開催地からの報告、事例紹介 ※全国精神保健福祉センター長会と共催	94人 (60機関)

(6) ひきこもり家族教室(再掲)

目 的:家族がひきこもりの知識と当事者への対応を学び、家族同士の情報交換や交流を図ることで、家族が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対 象 者: ひきこもり専門支援センターで支援している家族

場 所: 当センター 2階教育研修室

開催日	内 容	参加者
第1回 R3年4月30日(水)	講話:「ひきこもりの長期化と心の病気」 講師:当センター所長 医師 宮川 治 当事者の体験談(20代男性)	3家族13人
第2回 R3年7月14日(水)	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言発出(5/23~9/30)のため中止。	
第3回 R3年11月10日(水)	講話:「ひきこもりの理解のために」 講師:当センター相談指導班主任(心理士)国頭ゆきみ 家族同士の交流会	10家族12人
第4回 R4年2月2日(水)	新型コロナウイルスの急激な感染拡大とまん延防止等重点措置の対象地域(1/9~2/20)となった状況を鑑み、中止。	
	延べ数	23家族25人

(7) ひきこもり家族向け講演会(再掲)

目 的:家族がひきこもりの知識を得ることや当事者への対応方法を学ぶことを通して、家族自身が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対 象 者:ひきこもり専門支援センターを利用している家族、県内の家族会会員、当事者(当センターを利用している方を中心に募集)

開催日	内 容	参加者
R3年 12月4日(土)	当センター2階教育研修室及びZoomでの参加 講話:「家族にとってのひきこもり問題 ~本人の思いと家族の願い~」 講師:和歌山県精神保健福祉センター所長 精神科医 小野 善郎 先生	25家族30名

(8) 普及啓発

ひきこもり専門支援センターに関する情報をホームページに掲載する他、マスコミや市町村広報誌等からの取材対応し、情報発信した。

(9) 研修・交流会参加(再掲)

月日	内 容	場 所	主 催
R3年 8月18日(水) ～19日(木)	令和3年度厚生労働省『こころの健康づくり対策事業(思春期精神保健研修)』ひきこもり対策研修	Microsoft teams を利用したオンライン研修	国立国際医療研究センター国府台病院
R3年 10月18日(月)	ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会	Zoom を使用したオンライン研修	全国精神保健福祉センター長会
R3年 11月29日(月)	ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会	Zoom を使用したオンライン研修	全国精神保健福祉センター長会

(10) 講師等派遣(再掲)

日付	内 容	参加者数	主 催	対 象	派遣職員
R3年 4月14日(木)	「ひきこもりの理解と基礎知識」	約10名	NPO 法人 はじめました	ひきこもり当事者、またその家族、支援者	当センター 一保健師
R3年 7月1日(木)	「ひきこもりのメカニズムとアセスメント」	40人	県社会福祉協議会	生活保護担当職員 中堅職員研修	当センター 一保健師
R3年 7月9日(金)	「ひきこもりの理解と支援」	20人	那覇市寄り添い支援員(SSW)研修	社会福祉協議会職員及び民生委員児童委員	当センター 一心理士
R3年 10月15日(金) ～11月30日 (火)	「『ひきこもり』について知っておきたいこと」※YouTubeにて、動画を限定公開	再生回数不明	牧志駅前ほしぞら公民館	那覇市内に勤務・在住する者で、「ひきこもり」に関心のある方	当センター 一保健師
R3年 10月29日(金)	「コロナ過での不登校・ひきこもり！？どーすればいいの？」	約30人	沖縄市介護保険課主催 地域包括支援センター職員研修	沖縄市基幹包括支援センター、沖縄市包括支援センター6カ所	当センター 一保健師
R4年 1月15日(土)	「ひきこもりの理解と回復への道筋を考える講座」	21人	名護市生活支援課主催 市民向け講座	名護市民 名護市関係機関	当センター 一保健師

(VII) 職員研修

1 職員研修

学会・研究会・研修会参加

令和3年度研修派遣状況(費用弁償による派遣も含む)

月 日	研 修 名	場 所	主 催
R3年 7月20日(火)～ 7月21日(水)	令和3年度依存症治療指導者・依存症相談対応指導者養成研修(薬物)	オンライン研修	久里浜医療センター
R3年 8月18日(水)～ 8月19日(木)	令和3年度 厚生労働省こころの健康づくり対策事業 思春期精神保健研修 医療従事者専門研修	オンライン研修	国立国際医療研究センター 一国府台病院
R3年 8月20日(金)	ギャンブル障害の精神保健福祉相談・支援の実践研修(SAT-G研修)	オンライン研修	ギャンブル障害の精神保健福祉相談・支援の実践研修(SAT-G研修)研修事務局
R3年 8月26日(木)	九州ブロック保健師等研修会	オンライン研修	日本公衆衛生協会
R3年 9月7日(火)	ギャンブル障害の精神保健福祉相談・支援の実践研修(SAT-Gライト研修)	オンライン研修	ギャンブル障害の精神保健福祉相談・支援の実践研修(SAT-Gライト研修)研修事務局
R3年 9月16日(木)～ 9月17日(金)	ギャンブル等依存症研修	オンライン研修	久里浜医療センター
R3年 10月18日(月)	ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会	オンライン研修	全国精神保健福祉センター 長会
R3年 11月29日(月)	ひきこもりの精神保健相談・支援の実践研修会	オンライン研修	全国精神保健福祉センター 長会
R3年 12月2日(木)～ 12月3日(金)	令和3年 ゲーム・インターネット依存症相談対応指導者養成研修	オンライン研修	久里浜医療センター
R3年 12月10日(金)	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 令和3年度総会・研究協議会	オンライン研修	ひきこもり地域支援センター 全国連絡協議会
R4年 1月7日(金) 1月14日(金) 1月28日(金)	令和3年度精神障害者の地域移行関係職員に対する研修(多職種合同研修)	ビデオ配信 オンライン研修	沖縄県精神保健福祉士協会
R4年 3月25日(金) 3月26日(土)	メンタルヘルス・ファーストエイド指導者(エイダー)認定研修	オンライン研修	メンタルヘルス・ファーストエイドジャパン

資 料

- 1 沖縄県精神科救急医療体制概要
- 2 沖縄県精神科救急医療体制図
- 3 沖縄県精神科救急医療情報センター電話相談フローチャート
- 4 救急隊による精神科救急患者搬送のフローチャート

1 沖縄県精神科救急医療体制概要

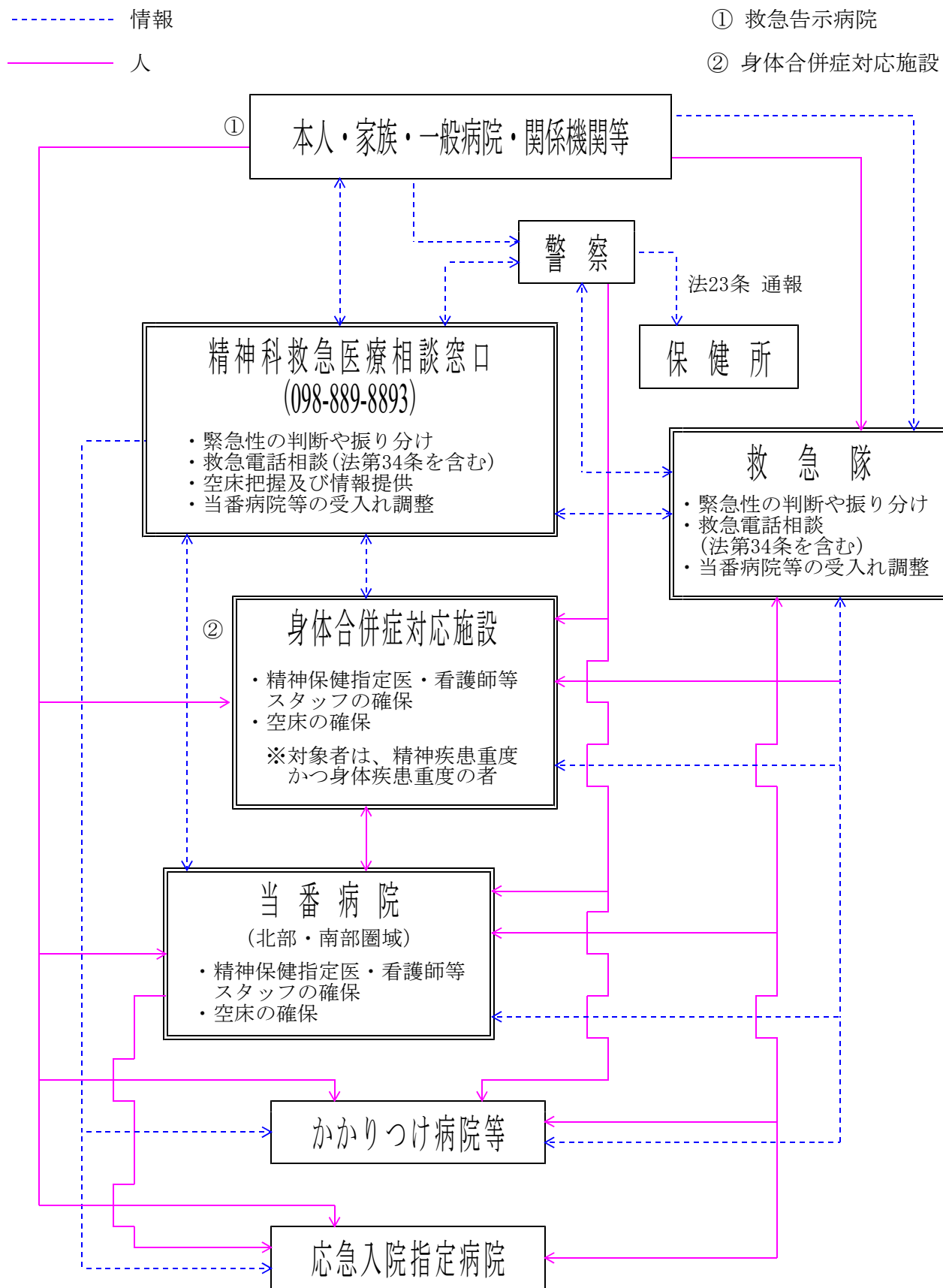
1 目的

精神科医療を必要とする者が、いつでも安心して相談や受診ができるよう、休日・夜間等の外来診療時間外において、精神障害者等の適切な医療及び保護を確保し、精神保健福祉の充実に資することを目的とする。

2 内容

項目	内 容
対象者	1 自らの意思により、相談・診療を求める者 2 精神症状により、緊急に精神科受診を必要とする者 3 自らの意思によらない医療・保護を必要とする者
非対象者	アルコール酩酊者、身体合併症優先者等
実施時間	休 日 : 9時から翌日9時まで(24時間) 平日夜間 : 17時から翌日9時まで
精神科救急医療 相談窓口	電話による相談受付 休 日 : 9時から翌日9時まで(24時間) 平日夜間 : 17時から翌日9時まで ----- 連絡先 098-889-8893
当番病院	北圏域、南圏域ごとに1当番病院(精神科救急医療施設) 宮古、八重山圏域については現行県立病院の診療体制で対応
当番病院の 診療体制等	精神保健指定医(オンコール可)1名、看護師1名、 1床の空床確保等診療応需体制を整備する。
かかりつけ病院	かかりつけ病院がある救急患者への対応は、かかりつけ病院で 対応することを基本とする。
応急入院指定 病院(21カ所)	北圏域: 国立病院機構琉球病院 他 南圏域: 県立精和病院 他 宮古圏域: 県立宮古病院 八重山圏域: 県立八重山病院
合併症受入 協力病院	当番病院等では対応困難な身体合併症患者を受け入れる病院で 対応することを基本とする。
精神科救急 医療体制連絡 調整委員会	システムの適切な運営を図るため医師会、精神病院協会、警察、 消防、精神科医療の学識経験者、行政等の代表者からなる委員 会を設置する。
搬 送	原則として 1 診察や入院を依頼した者が搬送を行う。 2 転院患者については、転院依頼した者が搬送を行う。

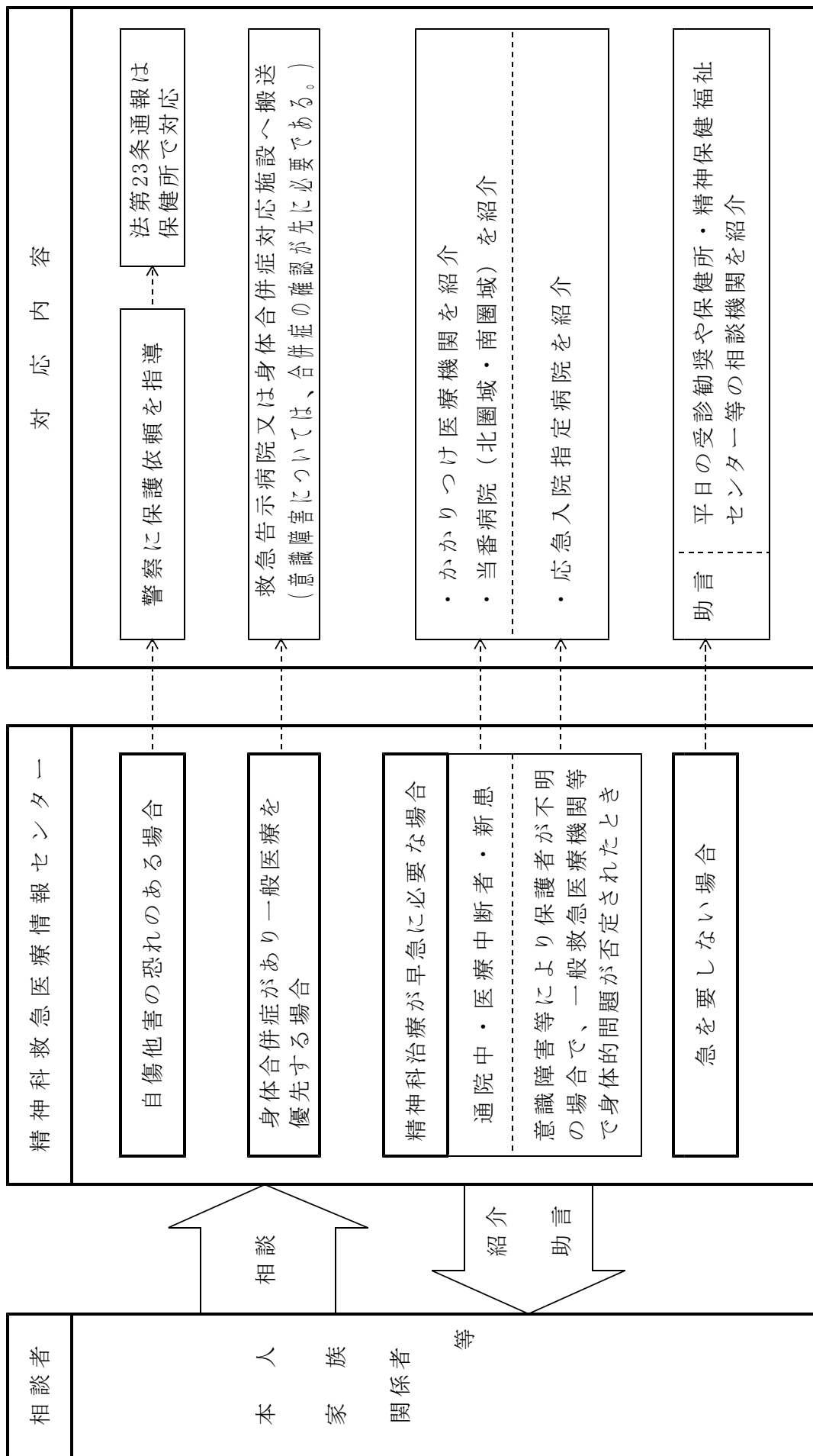
2 沖縄県精神科救急医療体制図



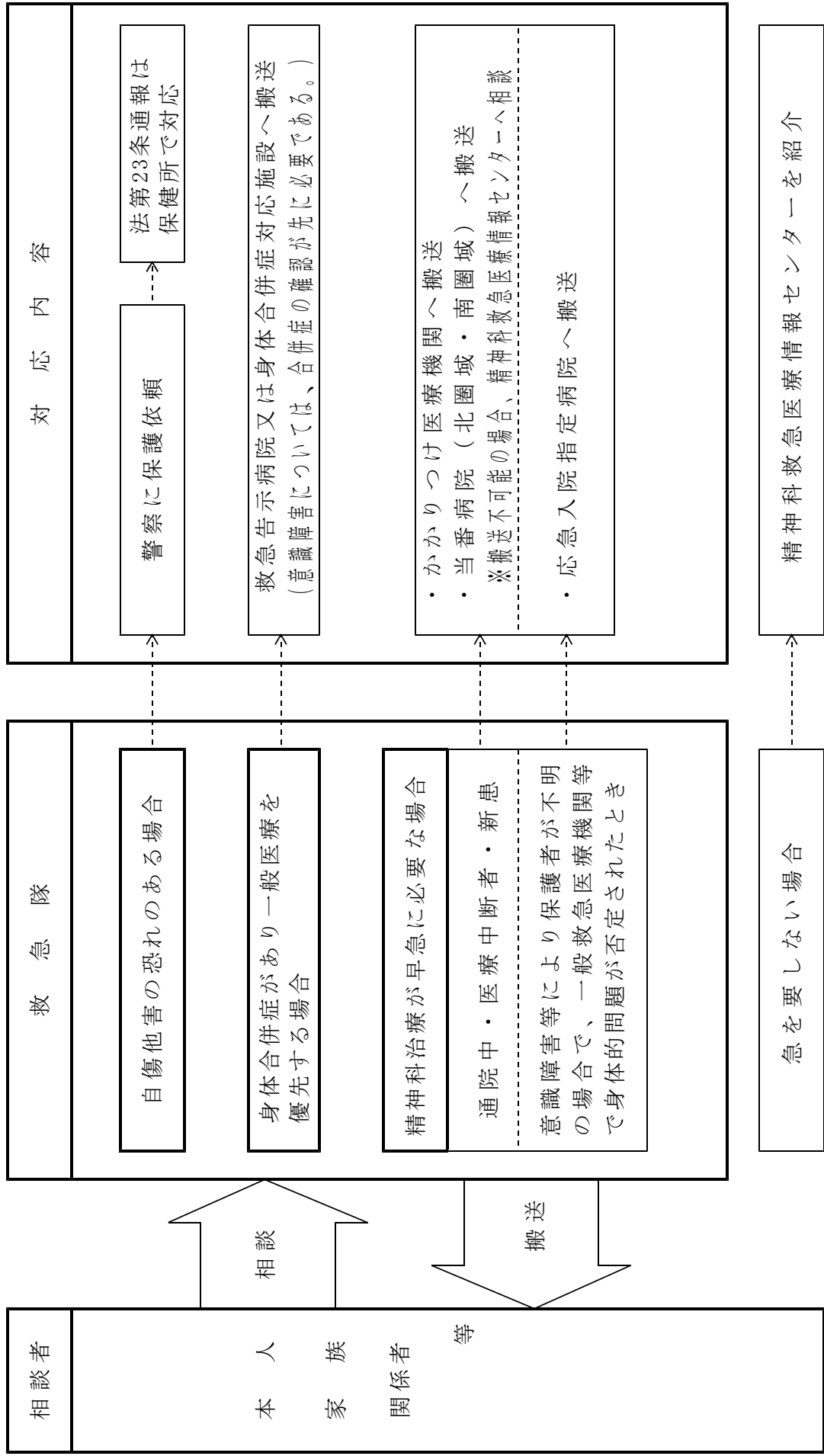
※ かかりつけ病院のある救急患者については、相談窓口を介さず、直接かかりつけ病院を受診することを基本とする。

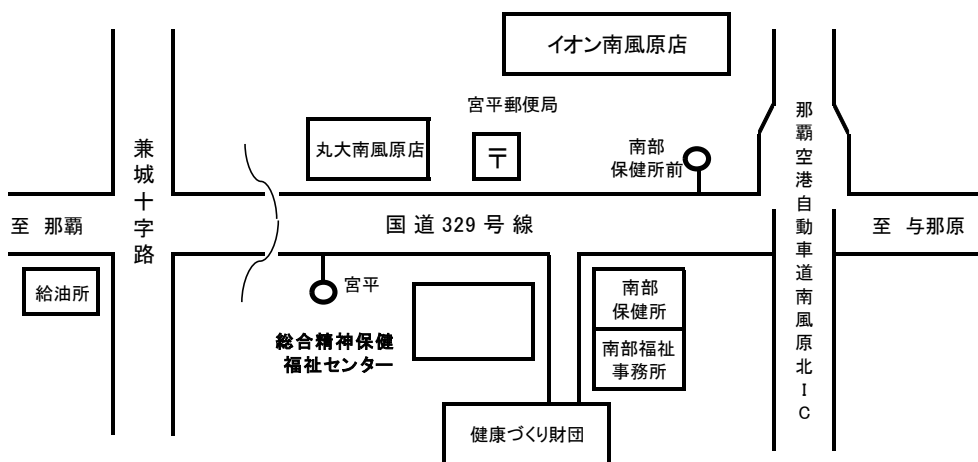
※ かかりつけ病院が受け入れられない搬送については、相談窓口を介さず、直接当番病院へ連絡調整の上、搬送することを基本とする。

3 沖縄県精神科救急医療情報センター電話相談窓口の流れ <フローチャート>



4 救急隊による精神科救急患者搬送の流れ <フローチャート>





【交通案内】
〈バス〉

- 39 南城線(沖縄バス)
- 339 南城結の街線(〃)
- 30 泡瀬東線(東陽バス)
- 37 那覇新開線(〃)
- 38 志喜屋線(〃)
- 191 城間線(〃)
- 338 斎場御嶽線(〃)

発行：沖縄県立総合精神保健福祉センター

〒901-1104

沖縄県南風原町字宮平212-3

TEL (098)888-1443

FAX (098)888-1710
